令和７年度

シラバス

　本校で今年度開講するすべての教科・科目について、その内容、年間の授業計画等をまとめました。受講科目を決定する時の参考資料とし、一年間の学習を進めていく指針として役立ててください。

　最後のページには、各々の学習活動がどのような観点で評価されるかをまとめてあります。参考にしてください。

岡山県立岡山操山高等学校　通信制課程

目　次

国　語
◎現代の国語 ……… １
◎言語文化 ……… ２
論理国語 ……… ３
古典探究 ……… ４
表現力探究 ……… ５

地理歴史
◎地理総合 ……… ６
地理探究 ……… ７
◎歴史総合 ……… ８
日本史探究 ……… ９
世界史探究 ………１０

公　民
◎公共 ………１１
倫理 ………１２
政治・経済 ………１３

数　学
数学入門 ………１４
◎数学Ⅰ ………１５
数学Ⅱ ………１６
数学Ａ ………１７
数学探究 ………１８

理　科
◎物理基礎 ………１９
物理 ………２０
◎化学基礎 ………２１
化学 ………２２
◎生物基礎 ………２３
生物 ………２４

保健体育
◎体育Ⅰ ………２５
◎体育Ⅱ ………２６
◎体育Ⅲ（実技） ………２７
◎体育Ⅲ（理論） ………２８
◎保健 ………２９

芸　術
Ⓘ音楽Ⅰ ………３０
Ⓘ美術Ⅰ ………３１
美術Ⅱ ………３２
Ⓘ書道Ⅰ ………３３
書道Ⅱ ………３４

外国語
英語入門 ………３５
◎英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ ………３６
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ ………３７
論理・表現Ⅰ ………３８
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ探究 ………３９

家　庭（共通科目）
◎家庭総合 ………４０

情　報
◎情報Ⅰ ………４１

家　庭（専門科目）
生活と福祉 ………４２
フードデザイン ………４３

◎総合的な探究の時間
………４４

学習と学習評価について
………４５

各教科　評価の観点と規準
……４６～４８

◎…必履修科目（卒業までに履修が必要な科目）
Ⓘ…選択必履修科目（1つ履修が必要な科目）
※前籍校での科目により履修条件を満たす場合もあります。

教科	国語		前期	後期
科目	**現代の国語**	単位数		2
教科書（発行所）	**新編現代の国語(東京書籍)**	レポート数		6
		最低面接時間数		2
教科書以外の教材（発行所）	**新編現代の国語学習書(ＮＨＫ出版)**	放送視聴による面接時間数免除		1

科目の紹介	必履修科目です。実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成します。		
担当者からのアドバイス・その他の注意	生きていく上で、音声や文字から情報を得ること、言葉や文章によって思いや考えを伝えることは、とても大切なことです。言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を培っていきましょう。新聞やテレビ、書籍、インターネットなどの膨大な情報の中から必要かつ正しいものを選び、活用できれば、よりよい未来を創ることができます。まずは「読書」と、気持ちや考えを言葉にする練習に取り組んでみましょう。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	随想、評論、報道文等の内容を的確に読み取ることができる。 用語をただしく説明したり、自分の思いや考えを適切に表現したりできる。	社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。 それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。	レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	**前期は開講されていません。**		
後期	自己を見つめる　表現力を鍛える　『ルリボシカミキリの青』	1	後期レポート第１回
	説得力をみがく　『未来をつくる想像力』	1	後期レポート第２回
	説明にチャレンジ　『分かりやすい説明をしよう』	1	後期レポート第３回
	伝え方を工夫しよう　『りんごのほっぺ』	1	後期レポート第４回
	読み取る力を育てよう　『グラフや写真の読み取り方』 大人の伝え方にトライ　『手紙・メールの書き方』	1	後期レポート第５回
	未来に目を向ける　『真の自立とは』	1	後期レポート第６回
備考	NHK高校講座の放送を利用して理解を深めましょう。		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**なし**

<table>
<tr><td>教科</td><td>国語</td><td></td><td>前期</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>科目</td><td>言語文化</td><td>単位数</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">教科書（発行所）</td><td rowspan="2">新編言語文化（東京書籍）</td><td>レポート数</td><td>6</td><td></td></tr>
<tr><td>最低面接時間数</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>教科書以外の教材
（発行所）</td><td>新編言語文化学習書（ＮＨＫ出版）</td><td>放送視聴による
面接時間数免除</td><td>1</td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目の紹介</td><td colspan="3">必履修科目です。言葉により何が伝えられてきたかを様々な時代の文に触れながら学びます。</td></tr>
<tr><td>担当者からのアドバイス・その他の注意</td><td colspan="3">　人は、生きていく中でいろいろな経験をし、喜び、怒り、哀しみ等さまざまな感情を味わいます。そしていろいろなことを思い、悩み、考えます。こういった人の営みは古来延々と繰り返されてきました。その膨大な言葉の中から、私たちの祖先が、「これは心に染みる。ぜひ他の人にも、次の世代にも伝えたい！」と思い、伝えてきたもの、それが言語文化です。
　つらいとき、悔しいとき、迷うとき、もうだめだと思うとき、「本」を開いてください。「ドンマイ！」「あなたは独りではないよ」「あるある」「こう考えたらどうかな」と、あなたと一緒に歩みたい、たくさんの温かい先人たちに囲まれていることに気付きますよ。</td></tr>
<tr><td>評価の観点</td><td>Ⅰ.知識・技能</td><td>Ⅱ.思考･判断･表現</td><td>Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価の基本的な考え方</td><td>　常用漢字の読み書きができる。
　我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。
　古典の世界に親しむために、古典を読むために必要なきまりや特有の表現などについて理解している。</td><td>　自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫できる。
　文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。</td><td>　スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。
　レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。
　学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。
　それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。</td></tr>
<tr><td colspan="3">　上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。</td></tr>
<tr><td>主な評価方法</td><td>主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。</td><td>主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。</td><td>レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。</td></tr>
</table>

学期	学習内容		時数	レポート等
前期	詩歌を「ちゃんと」読もう	『詩歌　命をうたう』	1	前期レポート第１回
	小説を「ちゃんと」読もう	『羅生門』	1	前期レポート第２回
	古文にトライ！	『古文入門』	1	前期レポート第３回
	古文の世界に入ってみよう	『随筆　日々の思い』	1	前期レポート第４回
	漢文にトライ！	『漢文入門』『漢詩』	1	前期レポート第５回
	漢文の世界に入ってみよう	『論語』『史話』	1	前期レポート第６回
後期	**後期は開講されていません。**			
備考	NHK高校講座の放送を利用して理解を深めましょう。			

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**なし**

教科	国語		前期	後期
科目	**論理国語**	単位数	2	2
教科書（発行所）	**新編論理国語(東京書籍)**	レポート数	6	6
		最低面接時間数	2	2
教科書以外の教材（発行所）	**新編論理国語学習書(ＮＨＫ出版)**	放送視聴による面接時間数免除	1	1

科目の紹介	「現代の国語」及び「言語文化」により育成された資質・能力を基盤とし、実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする力を養う科目です。
担当者からのアドバイス・その他の注意	意見文などを書く課題がある。 国語辞典や『国語図説』（便覧）を用いるときもある。学習用国語辞典（小中学生用）は使えない。 「現代の国語」及び「言語文化」の履修後に、選択する科目である。「古典探究」との同時受講が可能である。

評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考・判断・表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	実社会に必要な国語の知識や技能について理解し、それを適切に使うことができる。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価「B」になります。特に程度が高い状況を評価「A」とします。また、基準を満たしていない場合は評価「C」になります。最終評価で評価「A」となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	レポート・スクーリング・テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	「対話とは何か」　細川　英	1	前期レポート第Ⅰ回
	「『ふしぎ』ということ」　河合　隼雄	1	前期レポート第２回
	「ラップトップ抱えた『石器人』」　長谷川　真理子	1	前期レポート第３回
	「複数の『わたし』」　松村　圭一郎	1	前期レポート第４回
	「楽に働くこと、楽しく働くこと」　小関　智弘	1	前期レポート第５回
	「思考の肺活量」　鷲田　清一	1	前期レポート第６回
後期	「最初のペンギン」　茂木　健一郎	1	後期レポート第Ⅰ回
	「豊かさと生物多様性」　本川　達雄	1	後期レポート第２回
	「カフェの開店準備」　小池　昌代	1	後期レポート第３回
	「言葉は『ものの名前』ではない」　内田　樹	1	後期レポート第４回
	「ロボットが隣人になるとき」　野矢　茂樹	1	後期レポート第５回
	論文・レポートの種類と構成	1	後期レポート第６回
備考	特になし		

教科書・学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**なし**

教科	国語		前期	後期
科目	**古典探究**	単位数	2	2
教科書（発行所）	高等学校標準古典探究 (第一学習社)	レポート数	6	6
		最低面接時間数	2	2
教科書以外の教材 （発行所）	高等学校標準古典探究 学習書(ＮＨＫ出版) 新訂国語図説　六訂版(京都書房／啓隆社)	放送視聴による 面接時間数免除	1	1

科目の紹介	我が国の伝統的な言語文化「古典」について探究し、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を高めていきます。		
担当者からのアドバイス･その他の注意	「言語文化」「現代の国語」の履修後に受講できます。 古典の作品を通して、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めましょう。 また、先人のものの見方、考え方に触れて伝え合う力を身につけ、自分の思いや考えを広げたり深めたりする力を培いましょう。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	古語の語彙を増やし、経年による言葉の変化や、現代の言葉への影響を理解している。 古典の作品や文章の種類と特徴について理解している。 我が国の文化の特質や中国など外国文化との関係について理解している。	書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈できる。 作品の背景や他の作品などとの関係を踏まえながら作品の価値について考察できる。 作品の内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりできる。	スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	古本説話集「平中が事」　十訓抄「文字一つの返し」	1	前期レポート第１回
	方丈記「ゆく川の流れ」　伊勢物語「初冠」	1	前期レポート第２回
	枕草子「雪のいと高う降りたるを」 俳諧「春夏秋冬」	1	前期レポート第３回
	韓非子「嬰逆鱗」　唐詩紀事「推敲」	1	前期レポート第４回
	十八史略「死諸葛走生仲達」　王維「鹿柴」	1	前期レポート第５回
	捜神記「売鬼」	1	前期レポート第６回
後期	源氏物語「光る君誕生」	1	後期レポート第１回
	紫式部日記「日本紀の御局」　更級日記「源氏の五十余巻」	1	後期レポート第２回
	平家物語「能登殿の最期」 玉勝間「兼好法師が詞のあげつらひ」	1	後期レポート第３回
	説苑「不顧後患」　淮南子「宋人有嫁子者」	1	後期レポート第４回
	諸家の思想　老子「百谷王」 荘子「鴟得腐鼠」	1	後期レポート第５回
	韓愈「猫相乳」　柳宗元「臨江之麋」	1	後期レポート第６回
備考	特になし		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	新訂国語図説　六訂版（五訂版も可）

教科	国語		前期	後期
科目	表現力探究	単位数	2	
教科書（発行所）	新編論理国語(東京書籍)	レポート数	6	
		最低面接時間数	2	
教科書以外の教材（発行所）	ブレない小論文の書き方(教学社)	放送視聴による面接時間数免除	-	

科目の紹介	小論文の基本的な書き方について学習する科目です。		
担当者からのアドバイス・その他の注意	大学等を小論文で受験する人が対象です。原則として、「論理国語」を修得した後に受講してください。小論文を書くときの基本的な手順について学習し、400字から700字の小論文に挑戦します。また、副教材の参考書については、レポートの出題範囲以外の課題にも取り組んでみましょう。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考・判断・表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解し、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを使い分けることができる。 自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにできている。	自分の主張の合理性が伝わるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、相手の反論を想定して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。 自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方を工夫することができる。	スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。 それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価「B」になります。特に程度が高い状況を評価「A」とします。また、基準を満たしていない場合は評価「C」になります。最終評価で評価「A」となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	レポート・スクーリング・テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	論理の力を鍛えよう・的確に表現するために	1	前期レポート第１回
	小論文とは何か・小論文の「型」	1	前期レポート第２回
	メモのとり方・小論文の「型」の書き方	1	前期レポート第３回
	課題文のない小論文を書く	1	前期レポート第４回
	課題文のある小論文を書く	1	前期レポート第５回
	資料付きの小論文を書く	1	前期レポート第６回
後期	後期は開講されていません。		
備考	特になし		

教科書・学習書以外で授業の出席時に必要なもの	ブレない小論文の書き方(教学社)

教科	地理歴史		前期	後期
科目	地理総合	単位数	2	
教科書（発行所）	高等学校新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）	レポート数	6	
		最低面接時間数	2	
教科書以外の教材（発行所）	高等学校新地理総合学習書（ＮＨＫ出版）	放送視聴による面接時間数免除	1	

科目の紹介	必履修科目です。地図を通して現代世界をとらえてのち、国際理解と国際協力および、持続可能な地域づくりなどについて地理的な見方・考え方で考察していきます。	
担当者からのアドバイス・その他の注意	地理で学ぶ知識や技能は、私たちの身の回りのさまざまな社会問題や地理的事象を、私たちの手で考察できるようにすることです。地理を深く、かつ広く学び平和で民主的な国家・社会を切り拓く総合力を培っていきましょう。新聞やテレビなどの報道に注意し、日本や世界の出来事に興味を持って国際人としての自覚に努めましょう。地理を理解するためにも、地図帳を大いに活用しましょう。	

評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考・判断・表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	地球上の位置、地図、生活文化、地球的課題、自然災害と防災などについて理解し、その知識を身に付けている。 調査や諸資料を収集したり、情報を選択して、読み取ったりまとめたりできる。	地球上の位置、地図、生活文化、地球的課題、自然災害と防災などについて用語を正しく説明したり、自分の考えを表現できる。	スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。 それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価「B」になります。特に程度が高い状況を評価「A」とします。また、基準を満たしていない場合は評価「C」になります。最終評価で評価「A」となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	レポート・スクーリング・テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	地図と地理情報システム　結びつきを深める現代世界	1	前期レポート第１回
	世界の地形と人々の生活　世界の気候と人々の生活	1	前期レポート第２回
	世界の言語・宗教と人々の生活　歴史的背景と人々の生活	1	前期レポート第３回
	世界の産業と人々の生活	1	前期レポート第４回
	地球的課題　地球環境問題　資源・エネルギー問題 人口問題　食糧問題　都市・居住問題	1	前期レポート第５回
	日本の自然環境　地震・津波と防災　火山災害と防災 気象災害と防災　自然災害への備え 生活圏の調査と地域の展望	1	前期レポート第６回
後期	後期は開講されていません。		
備考	特になし		

教科書・学習書以外で授業の出席時に必要なもの	地図帳も教科書なので、必ず持参すること。

<table>
<tr><td>教科</td><td>地理歴史</td><td></td><td>前期</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>科目</td><td>地理探究</td><td>単位数</td><td>1</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教科書（発行所）</td><td rowspan="2">新詳地理探究（帝国書院）
新詳高等地図（帝国書院）</td><td>レポート数</td><td>3</td><td>6</td></tr>
<tr><td>最低面接時間数</td><td>1</td><td>2</td></tr>
<tr><td>教科書以外の教材
（発行所）</td><td>新詳地理探究学習書（ＮＨＫ出版）</td><td>放送視聴による
面接時間数免除</td><td>－</td><td>1</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目の紹介</td><td colspan="3">世界の諸課題を地球的な視野で捉えることにより、持続可能な社会の在り方について探究する力を身に付けていく。系統地理的な考察、地誌的な考察の後、現代世界における日本の国土像を探究・構想していきます。</td></tr>
<tr><td>担当者からのアドバイス･その他の注意</td><td colspan="3">地理を深く、かつ広く学び平和で民主的な国家・社会を切り拓く総合力を培っていきましょう。新聞やテレビなどの報道に注意し、日本や世界の出来事に興味を持って国際人としての自覚に努めましょう。地理を理解するためにも、地図帳を大いに活用しましょう。</td></tr>
<tr><td>評価の観点</td><td>Ⅰ.知識・技能</td><td>Ⅱ.思考･判断･表現</td><td>Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価の基本的な考え方</td><td>自然環境、資源と産業、交通・通信、人口、村落と都市、生活文化、民族・宗教、各国地誌、持続可能な国土像などについて理解し、その知識を身に付けている。
調査や諸資料を収集したり、情報を選択して、読み取ったりまとめたりできる。</td><td>自然環境、資源と産業、交通・通信、人口、村落と都市、生活文化、民族・宗教、各国地誌、持続可能な国土像などについて用語を正しく説明したり、自分の考えを表現できる。</td><td>スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。
レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。
学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。
それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。</td></tr>
<tr><td colspan="3">上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価「B」になります。特に程度が高い状況を評価「A」とします。また、基準を満たしていない場合は評価「C」になります。最終評価で評価「A」となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。</td></tr>
<tr><td>主な評価方法</td><td>主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。</td><td>主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。</td><td>レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。</td></tr>
</table>

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	地域区分　中国　韓国　ASEAN諸国	1	前期レポート第１回
	インド　西・中央アジア　北・サハラ以南アフリカ　EU諸国	1	前期レポート第２回
	ロシア　アメリカ合衆国　ラテンアメリカ　オセアニア 持続可能な国土像の探究	1	前期レポート第３回
後期	地球環境と人間　地形　気候①	1	後期レポート第１回
	気候②　日本の自然環境　地球環境問題	1	後期レポート第２回
	農林水産業　食料問題　エネルギー・鉱産資源 資源・エネルギー問題	1	後期レポート第３回
	工業　第3次産業　交通・通信　観光　貿易と経済圏	1	後期レポート第４回
	人口　人口問題　村落と都市　都市・居住問題	1	後期レポート第５回
	生活文化　民族・宗教と民族問題　国家の領域と領土問題	1	後期レポート第６回
備考	○地理総合の履修後に地理探究Ⅰ（後期開講科目）を受講できます。 ○後期の地理探究Ⅰの受講後に前期の地理探究Ⅱの受講ができます。		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**地図帳も教科書なので、必ず持参すること。**

教科	地理歴史		前期	後期
科目	**歴史総合**	単位数		2
教科書（発行所）	**新選　歴史総合（東京書籍）**	レポート数		6
		最低面接時間数		2
教科書以外の教材（発行所）	**新選　歴史総合　学習書（ＮＨＫ出版）**	放送視聴による面接時間数免除		1

科目の紹介	近現代の歴史について、日本と世界の相互の視点で捉え、現代的な諸課題の解決に結びつけることを目指す科目です。		
担当者からのアドバイス･その他の注意	歴史で学ぶ知識や技能は、私たちの身の回りのさまざまな社会問題や現代的な課題を私たちの手で考察できるようにすることです。歴史を深く、かつ広く学び平和で民主的な国家・社会を切り拓く総合力を培っていきましょう。新聞やテレビなどの報道に注意し、日本や世界の出来事に興味を持って国際人としての自覚に努めましょう。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	現代的な諸課題に関わる近現代の歴史の変化で近代化､大衆化､グローバル化について基本的な知識を身に付けている。 諸資料を用いて歴史に関するさざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現代的な諸課題に関わる近現代の歴史の変化で近代化､大衆化､グローバル化について用語を正しく説明したり、自分の考えを表現できる。	スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。 それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	**前期は開講されていません。**		
後期	歴史の資料の特質　近代化　結び付く世界と日本の開国 産業革命	1	後期レポート第Ｉ回
	日本の産業革命　市民革命と近代社会　明治維新 帝国主義と植民地	1	後期レポート第２回
	大衆社会の成立　第一次世界大戦　国際協調 マスメディアの発達	1	後期レポート第３回
	世界恐慌　国際協調体制の崩壊　第二次世界大戦 占領政策と冷戦	1	後期レポート第４回
	グローバル化　冷戦　キューバ危機　地域紛争 冷戦下の日本とアジア	1	後期レポート第５回
	問い直される近代　石油危機と経済の自由化 アジアの経済発展と日本　冷戦の終結と日本	1	後期レポート第６回
備考	特になし		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**なし**

<table>
<tr><td>教科</td><td>地理歴史</td><td></td><td>前期</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>科目</td><td>日本史探究</td><td>単位数</td><td>1</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教科書（発行所）</td><td rowspan="2">日本史探究(東京書籍)</td><td>レポート数</td><td>3</td><td>6</td></tr>
<tr><td>最低面接時間数</td><td>1</td><td>2</td></tr>
<tr><td>教科書以外の教材
（発行所）</td><td>日本史探究 学習書(ＮＨＫ出版)</td><td>放送視聴による
面接時間数免除</td><td>-</td><td>1</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目の紹介</td><td colspan="3">小学校や中学校でも学習した日本の歴史を、より詳しく、史料や地図・写真なども使って、各時代の特徴を考えながら学習します。</td></tr>
<tr><td>担当者からのアドバイス･その他の注意</td><td colspan="3">レポート問題の解答にあたっては、いきなり解答のみを探すのではなく、まず教科書の本文や脚注、図版なども含めてよく読み、書かれている内容を十分に理解し、どんな時代なのかを把握したうえで、解答するようにしましょう。</td></tr>
<tr><td>評価の観点</td><td>Ⅰ.知識・技能</td><td>Ⅱ.思考･判断･表現</td><td>Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価の基本的な考え方</td><td>（前期）室町初期までの基本的な知識を身に付けている。
（後期）室町中期から現代までの基本的な知識を身に付けている。</td><td>（前期）室町初期までの様々な歴史事象の因果関係について正しく説明できる。
（後期）室町中期から現代までの様々な歴史事象の因果関係について正しく説明できる。</td><td>スクーリングでは､最低面接時間数を満たすように出席する。
レポートでは､提出期限に間に合うように提出する。
学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。</td></tr>
<tr><td>主な評価方法</td><td>主にテストで評価します。</td><td>主にテストとレポートで評価します。</td><td>レポート、スクーリング、テストの状況を総合的に評価します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>学期</td><td>学習内容</td><td>時数</td><td>レポート等</td></tr>
<tr><td rowspan="3">前期</td><td>旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、
飛鳥時代前半（推古朝まで）</td><td>1</td><td>前期レポート第Ｉ回</td></tr>
<tr><td>飛鳥時代後半（大化の改新以降）、奈良時代、平安中期</td><td>1</td><td>前期レポート第２回</td></tr>
<tr><td>平安後期、鎌倉時代、室町初期</td><td>1</td><td>前期レポート第３回</td></tr>
<tr><td rowspan="6">後期</td><td>室町中期、安土・桃山時代、江戸時代初期</td><td>1</td><td>後期レポート第Ｉ回</td></tr>
<tr><td>江戸時代中期</td><td>1</td><td>後期レポート第２回</td></tr>
<tr><td>江戸後期、幕末、明治維新</td><td>1</td><td>後期レポート第３回</td></tr>
<tr><td>自由民権運動、日清戦争、日露戦争、韓国併合</td><td>1</td><td>後期レポート第４回</td></tr>
<tr><td>第一次世界大戦、大正デモクラシー、昭和恐慌、
満州事変、日中戦争、第二次世界大戦</td><td>1</td><td>後期レポート第５回</td></tr>
<tr><td>戦後の歴史と現代の課題</td><td>1</td><td>後期レポート第６回</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3">○「歴史総合」の履修後に「日本史探究Ⅰ」（前期開講科目）を受講できます。
○「日本史探究Ⅰ」の受講後に「日本史探究Ⅱ」（後期開講科目）を受講できます。</td></tr>
</table>

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	なし

教科	地理歴史		前期	後期
科目	**世界史探究**	単位数	2	1
教科書（発行所）	**世界史探究（東京書籍）**	レポート数	6	3
		最低面接時間数	2	1
教科書以外の教材（発行所）	**世界史探究　学習書（ＮＨＫ出版）**	放送視聴による面接時間数免除	1	-

科目の紹介	「歴史総合」の学習内容を踏まえて世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、事象の意味や意義、特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究する科目です。		
担当者からのアドバイス･その他の注意	歴史で学ぶ知識や技能は、私たちの身の回りのさまざまな社会問題や現代的な課題を私たちの手で考察できるようにすることです。歴史を深く、かつ広く学び平和で民主的な国家・社会を切り拓く総合力を培っていきましょう。新聞やテレビなどの報道に注意し、日本や世界の出来事に興味を持って国際人としての自覚に努めましょう。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	（前期）古代文明から近代についての基本的な知識を身に付けている。 （後期）近代から現代にかけての国際秩序の変化について基本的な知識を身に付けている。	（前期）古代文明から近代における歴史事象の因果関係などを正しく説明できる。 （後期）近代から現代にかけての国際秩序の変化に関する歴史事象の因果関係などを正しく説明できる。	スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。 それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで評価します。	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	古代文明の出現　古代ギリシア　ローマ帝国	1	前期レポート第１回
	イスラーム世界の成立　ビザンツ帝国　古代インドと仏教 古代中国	1	前期レポート第２回
	中世ヨーロッパの展開　ルネサンス	1	前期レポート第３回
	モンゴル帝国と元の成立　大交易時代　一体化する世界	1	前期レポート第４回
	清と東アジア　主権国家の形成　宗教改革　産業革命 アメリカ独立	1	前期レポート第５回
	フランス革命　南北アメリカの発展　世界市場の形成	1	前期レポート第６回
後期	帝国主義　植民地化とアジアの変動　第一次世界大戦 ヴェルサイユ体制	1	後期レポート第１回
	世界恐慌　国際協調体制の動揺　第二次世界大戦 戦後秩序の形成	1	後期レポート第２回
	冷戦の展開　冷戦の終結とその後の世界 グローバル化にともなう世界の変容	1	後期レポート第３回
備考	○「歴史総合」の履修後に「世界史探究Ｉ」（前期開講科目）を受講できます。 ○「世界史探究Ｉ」の受講後に「世界史探究Ⅱ」（後期開講科目）を受講できます。		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**なし**

<table>
<tr><td>教科</td><td>公民</td><td></td><td>前期</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>科目</td><td>公共</td><td>単位数</td><td>2</td><td rowspan="4">前期と同様</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教科書（発行所）</td><td rowspan="2">公共(東京書籍)</td><td>レポート数</td><td>6</td></tr>
<tr><td>最低面接時間数</td><td>2</td></tr>
<tr><td>教科書以外の教材
（発行所）</td><td>公共　学習書(ＮＨＫ出版)</td><td>放送視聴による
面接時間数免除</td><td>1</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目の紹介</td><td colspan="3">必履修科目です。世界が大きく変化していく時代です。私たちが思い描く未来を実現するために、他者とともに歩む社会を創るために、何ができるでしょうか。それを考えるために学んでいくのが「公共」です。</td></tr>
<tr><td>担当者からのアドバイス･その他の注意</td><td colspan="3">スクーリングでは、受講者の意見交換を交えて学んでいきます。
（入学時に配付されるグーグルアカウントの登録を忘れず。）
レポート学習は、教科書の欄外の注なども、よく確認するのがポイントです。</td></tr>
<tr><td>評価の観点</td><td>Ⅰ.知識・技能</td><td>Ⅱ.思考･判断･表現</td><td>Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価の基本的な考え方</td><td>現代社会の諸課題について基本的な知識を身に付けている。</td><td>現代社会の諸課題について、用語を正しく説明したり、自分の考えを表現できる。</td><td>スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。学習の成果が出るようテストに取り組んでいる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。</td></tr>
<tr><td>主な評価方法</td><td>主にテストで評価します。</td><td>主にテストとレポートで評価します。</td><td>レポート、スクーリング、テストの状況を総合的に評価します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>学期</td><td>学習内容</td><td>時数</td><td>レポート等</td></tr>
<tr><td rowspan="6">前期</td><td>青年期と自己形成の課題　功利主義と幸福の原理
義務論と公正の原理　生命・環境倫理　など</td><td>1</td><td>前期レポート第１回</td></tr>
<tr><td>民主主義　立憲主義　人権保障の意義と展開
日本国憲法の基本原理　日本の平和主義　など</td><td>1</td><td>前期レポート第２回</td></tr>
<tr><td>民主政治　地方自治　国会　内閣　選挙　世論
模擬投票　など</td><td>1</td><td>前期レポート第３回</td></tr>
<tr><td>市場経済のしくみ　金融のしくみと働き　中央銀行
財政の働きと課題　社会保障の考え方と課題　など</td><td>1</td><td>前期レポート第４回</td></tr>
<tr><td>働くということ　職業選択　労働者の権利
現代の雇用・労働問題　市民生活と法　消費者の権利と責任
司法のしくみと役割　刑事司法と司法参加の意義　模擬裁判
など</td><td>1</td><td>前期レポート第５回</td></tr>
<tr><td>国際社会の成り立ち　国際連合の役割　冷戦後の世界と日本
現代の紛争とその影響　平和な国際社会に向けて
貿易のしくみ　グローバル化と今日の国際経済　など</td><td>1</td><td>前期レポート第６回</td></tr>
<tr><td>後期</td><td colspan="3">後期は前期と同様です。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3">前期と後期は同じ内容で、前期と後期どちらかしか受講できません。</td></tr>
</table>

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	なし

<table>
<tr><td>教科</td><td colspan="3">公民</td><td></td><td>前期</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>科目</td><td colspan="3">**倫理**</td><td>単位数</td><td>2</td><td rowspan="5">前期と同様</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教科書（発行所）</td><td colspan="3" rowspan="2">倫理(東京書籍)</td><td>レポート数</td><td>6</td></tr>
<tr><td>最低面接時間数</td><td>2</td></tr>
<tr><td>教科書以外の教材
（発行所）</td><td colspan="3">倫理学習書(ＮＨＫ出版)</td><td>放送視聴による
面接時間数免除</td><td>1</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目の紹介</td><td colspan="3">「人間とは何か」「正しさとは何か」「人生をどう生きるか」「社会で起きている問題や現象をどうとらえればいいのか」･･･。古くから人間はこうした問いを繰り返しながら、哲学や宗教、様々な考え方、人としての在り方を受け継いできました。倫理では先人たちが生み出した「生きる知恵」について、学習します。</td></tr>
<tr><td>担当者からのアドバイス･その他の注意</td><td colspan="3">スクーリングでは、受講者の意見交換を交えて学んでいきます。
（入学時に配付されるグーグルアカウントの登録を忘れず。）
レポート学習は、教科書の欄外の注なども、よく確認するのがポイントです。</td></tr>
<tr><td>評価の観点</td><td>Ⅰ.知識・技能</td><td>Ⅱ.思考･判断･表現</td><td>Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価の基本的な考え方</td><td>倫理についての基本的な知識を身に付けている。</td><td>現代の諸課題と倫理について、用語を正しく説明したり、自分の考えを表現できる。</td><td>スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。</td></tr>
<tr><td>主な評価方法</td><td>主にテストで評価します。</td><td>主にテストとレポートで評価します。</td><td>レポート、スクーリング、テストの状況を総合的に評価します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>学期</td><td>学習内容</td><td>時数</td><td>レポート等</td></tr>
<tr><td rowspan="6">前期</td><td>人間とは何か　人間の心の働き　哲学すること
ギリシャの思想</td><td>1</td><td>前期レポート第Ⅰ回</td></tr>
<tr><td>宗教と社会　キリスト教　イスラーム　仏教　中国の思想
芸術</td><td>1</td><td>前期レポート第２回</td></tr>
<tr><td>近代と人間尊重の精神　近代思想の展開
人格の尊厳と人倫の思想</td><td>1</td><td>前期レポート第３回</td></tr>
<tr><td>理性への疑念　人間観・言語観の問いなおし
他者・自然とのかかわり</td><td>1</td><td>前期レポート第４回</td></tr>
<tr><td>日本人の精神風土　仏教と日本人の思想形成
儒教と日本人の思想形成　国学の思想　庶民の思想</td><td>1</td><td>前期レポート第５回</td></tr>
<tr><td>西洋思想と日本人の近代化
国際社会に生きる日本人の自覚</td><td>1</td><td>前期レポート第６回</td></tr>
<tr><td>後期</td><td colspan="3">後期は前期と同様です。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3">〇「公共」の履修後に受講できます。前期と後期は同じ内容で、前期と後期どちらかしか受講できません。</td></tr>
</table>

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	なし

教科	公民		前期	後期
科目	**政治・経済**	単位数	2	前期と同様
教科書（発行所）	**政治・経済(東京書籍)**	レポート数	6	
		最低面接時間数	2	
教科書以外の教材（発行所）	**政治・経済 学習書(ＮＨＫ出版)**	放送視聴による面接時間数免除	1	

科目の紹介	中学校の「公民」や高校の「公共」の内容をより深化し、政治や経済についての基本的な考え方から国際的な諸課題まで学習します。		
担当者からのアドバイス・その他の注意	レポート問題の解答にあたっては、いきなり解答のみを探すのではなく、まず教科書の本文や脚注、図版なども含めてよく読み、書かれている内容を十分に理解し、何が課題なのかを把握したうえで、解答するようにしましょう。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	民主政治の基本原理や日本の政治の特質と課題、現代経済のしくみや日本経済の課題、国際政治や国際経済のしくみや課題などについて、理論的・体系的に理解し、知識を身に付けている。	民主政治の基本原理や日本の政治の特質と課題、現代経済のしくみや日本経済の課題、国際政治や国際経済のしくみや課題などについて、身に付けた知識を踏まえて理論的に考察し、考察した結果を適切に表現することができる。	スクーリングでは､最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは､提出期限に間に合うように提出する。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで評価します。	主にテストとレポートで評価します。	レポート、スクーリング、テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	民主政治の基本原理　日本国憲法の基本原理	1	前期レポート第１回
	日本の政治機構　現代政治の特質と課題	1	前期レポート第２回
	現代の資本主義経済　現代経済のしくみ	1	前期レポート第３回
	日本経済の発展と現状　福祉社会と日本経済の課題	1	前期レポート第４回
	現代の国際政治	1	前期レポート第５回
	現代の国際経済	1	前期レポート第６回
後期	**後期は前期と同様です。**		
備考	○「公共」の履修後に受講できます。前期と後期は同じ内容で、前期と後期どちらかしか受講できません。		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**なし**

<table>
<tr><td>教科</td><td>数学</td><td></td><td>前期</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>科目</td><td>数学入門</td><td>単位数</td><td>2</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教科書（発行所）</td><td rowspan="2">数学入門教科書
（岡山操山高等学校通信制課程）</td><td>レポート数</td><td>6</td><td>3</td></tr>
<tr><td>最低面接時間数</td><td>2</td><td>1</td></tr>
<tr><td>教科書以外の教材
（発行所）</td><td>数学Ⅰ入門（ＮＨＫ出版）</td><td>放送視聴による
面接時間数免除</td><td>-</td><td>-</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目の紹介</td><td colspan="3">中学校までの内容を復習することに重点をおいた科目です。数学の特性として、抽象性と累積性をあげることができます。累積性については、基礎を固めることが重要ですが、この科目はそのために設けられたものです。</td></tr>
<tr><td>担当者からのアドバイス･その他の注意</td><td colspan="3">数学の基礎は、実は、極めて単純なことです。まずそれをしっかり身に付けることが重要であり、それは誰にでも可能なことです。それをしないで、ただ答えが合っているかどうかだけを問題にすることは、最も危険です。</td></tr>
<tr><td>評価の観点</td><td>Ⅰ.知識・技能</td><td>Ⅱ.思考･判断･表現</td><td>Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価の基本的な考え方</td><td>数の体系やⅠ次関数、２次関数を用いての数量の変化、三平方の定理の意味などについて理解し、その知識を身に付けている。
正しく計算し、それらの計量の有用性を認識し活用することができる。</td><td>数や式の見方を豊かにし、Ⅰ次関数、２次関数を用いての数量の変化、三平方の定理の性質を活用しての事象の考察ができる。</td><td>スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。
それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。</td></tr>
<tr><td colspan="3">上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。</td></tr>
<tr><td>主な評価方法</td><td>主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。</td><td>主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。</td><td>レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>学期</td><td>学習内容</td><td>時数</td><td>レポート等</td></tr>
<tr><td rowspan="6">前期</td><td>数の計算</td><td>1</td><td>前期レポート第Ⅰ回</td></tr>
<tr><td>文字式</td><td>1</td><td>前期レポート第２回</td></tr>
<tr><td>整式の計算</td><td>1</td><td>前期レポート第３回</td></tr>
<tr><td>展開</td><td>1</td><td>前期レポート第４回</td></tr>
<tr><td>因数分解</td><td>1</td><td>前期レポート第５回</td></tr>
<tr><td>Ⅰ次方程式</td><td>1</td><td>前期レポート第６回</td></tr>
<tr><td rowspan="3">後期</td><td>２次方程式</td><td>1</td><td>後期レポート第Ⅰ回</td></tr>
<tr><td>Ⅰ次関数</td><td>1</td><td>後期レポート第２回</td></tr>
<tr><td>２次関数　　三平方の定理</td><td>1</td><td>後期レポート第３回</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3">特になし</td></tr>
</table>

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	なし

教科	数学		前期	後期
科目	**数学Ⅰ**	単位数	2	1
教科書（発行所）	**新数学Ⅰ　　　（東京書籍）** **新数学Ⅰ解答編(東京書籍)**	レポート数	6	3
		最低面接時間数	2	1
教科書以外の教材（発行所）	**新数学Ⅰ学習書(ＮＨＫ出版)**	放送視聴による面接時間数免除	1	-

科目の紹介	必履修科目です。数学Ｉの内容（前期：数と式・２次関数・集合と論証・データの分析、後期：三角比）を学習します。		
担当者からのアドバイス・その他の注意	数学は覚えて使うこともありますが、それより大切なのは「理解する」ことです。そこに数学の面白さがあります。レポートを仕上げるために、公式を、理解もせず当てはめるなど、本末転倒にならないようにしましょう。必履修科目です。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考・判断・表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	数の体系や２次関数を用いての数量の変化、三角比の意味やその基本的な性質、集合の用語や基本的な統計分析などについて理解し、その知識を身に付けている。 正しく計算し、それらの計量の有用性を認識し活用することができる。	数や式の見方を豊かにし、２次関数を用いての数量の変化、三角比の性質を活用しての事象の考察、集合や統計分析を用いて、自分の考えを表現できる。	スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。 それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	レポート・スクーリング・テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	整式の加法･減法･乗法　展開　因数分解　根号を含む式の計算	1	前期レポート第１回
	１次方程式・不等式・２次方程式の解き方	1	前期レポート第２回
	２次関数とそのグラフ　平方完成	1	前期レポート第３回
	２次関数の最大値・最小値	1	前期レポート第４回
	２次関数のグラフと２次方程式・２次不等式	1	前期レポート第５回
	集合　命題　統計	1	前期レポート第６回
後期	三平方の定理と三角比の定義　相互関係	1	後期レポート第１回
	面積　正弦定理　余弦定理	1	後期レポート第２回
	三角比の拡張　鈍角での正弦定理･余弦定理	1	後期レポート第３回
備考	特になし		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**なし（スクーリングには教科書の解答編は持参不要）**

教科	数学		前期	後期
科目	**数学Ⅱ**	単位数	2	2
教科書（発行所）	新数学Ⅱ　　　（東京書籍） 新数学Ⅱ解答編(東京書籍)	レポート数	6	6
		最低面接時間数	2	2
教科書以外の教材（発行所）	新数学Ⅱ学習書(ＮＨＫ出版)	放送視聴による面接時間数免除	1	1

科目の紹介	数学Ⅱの内容（方程式・図形と方程式・三角関数・指数関数と対数関数・微分と積分）を学習します。		
担当者からのアドバイス・その他の注意	数学Ⅰで学習した、因数分解・２次方程式・２次関数・２次不等式・三角比を利用しながら、さらに拡張された数学の世界に突入します。計算が複雑で、学ぶ項目もたくさんあり、技術的に利用されるほとんどの関数が数学Ⅱで登場します。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考・判断・表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数および微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けている。 正しく計算し、それらの計量の有用性を認識し活用することができる。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的に考えたりすることを通して、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数および微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法などの技法を身に付けて、自分の考えを表現できる。	スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。 それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	レポート・スクーリング・テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	３次の因数分解　分数式　複素数　２次方程式 解と係数の関係	1	前期レポート第Ｉ回
	整式の除法と因数定理　高次方程式	1	前期レポート第２回
	直線上　平面上の点の座標　直線の方程式　２直線の関係	1	前期レポート第３回
	円の方程式　円と直線　不等式の表す領域	1	前期レポート第４回
	一般角　三角関数の相互関係　グラフ　性質	1	前期レポート第５回
	加法定理　加法定理の応用　弧度法	1	前期レポート第６回
後期	指数の拡張　累乗根	1	後期レポート第Ｉ回
	累乗根の計算　指数関数とそのグラフ	1	後期レポート第２回
	対数の性質　対数関数とそのグラフ　常用対数	1	後期レポート第３回
	平均変化率　微分係数　導関数　接線の方程式	1	後期レポート第４回
	関数のグラフ　関数の極大・極小　関数の最大・最小	1	後期レポート第５回
	不定積分　定積分　面積	1	後期レポート第６回
備考	数学Ⅰの履修後に受講できます。（数学探究との順序は問わない）		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**なし（スクーリングには教科書の解答編は持参不要）**

教科	数学		前期	後期
科目	数学A	単位数	2	
教科書（発行所）	新数学Ａ　　　（東京書籍） 新数学Ａ解答編（東京書籍）	レポート数	6	
		最低面接時間数	2	
教科書以外の教材（発行所）	新数学A 学習書（ＮＨＫ出版）	放送視聴による面接時間数免除	1	

科目の紹介	この科目は「（1）図形の性質」、「（2）場合の数と確率」及び「（3）数学と人間の活動」の三つの内容で構成されています。本校では、「（2）場合の数と確率」、「（3）数学と人間の活動」を中心に学習します。
担当者からのアドバイス･その他の注意	数学は覚えて使うこともありますが、それは少ないものです。大切なことは「理解する」ことです。そこに数学のおもしろさがあります。レポートを仕上げるために、書いてある公式を理解もせずに使うことのなんとむなしいことか。本末転倒にならないようにしましょう。

評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付けている。 数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。	スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。 それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。	レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	集合　集合の要素の個数　個数の数え方　和の法則と積の法則 順列　順列の利用　いろいろな順列	1	前期レポート第１回
	組合せ　組合せの利用	1	前期レポート第２回
	事象と確率　確率の計算　排反事象の確率　余事象の確率	1	前期レポート第３回
	独立な試行の確率　反復試行の確率　条件つき確率　期待値	1	前期レポート第４回
	数を表す　数の表し方のしくみ　２進法　位置を表す	1	前期レポート第５回
	約数と倍数　最大公約数と最小公倍数　ユークリッドの互除法 はかる　数学で遊ぶ	1	前期レポート第６回
後期	後期は開講されていません。		
備考	特になし		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	なし（スクーリングには教科書の解答編は持参不要）

教科	数学		前期	後期
科目	**数学探究**	単位数	1	1
教科書（発行所）	**新数学Ｉ　　　（東京書籍）** **新数学Ｉ解答編(東京書籍)**	レポート数	3	3
		最低面接時間数	1	1
教科書以外の教材（発行所）	**新数学Ｉ学習書(ＮＨＫ出版)**	放送視聴による面接時間数免除	-	-

科目の紹介	数学Ｉの内容（数と式・２次関数・三角比・集合と論証・データの分析）の発展的な部分を学習します。		
担当者からのアドバイス･その他の注意	数学Ｉで学習した内容をふまえて、文章題や身近な測量、背理法など生活の中に潜む数学的な内容について考察する。身近な場面を扱うとはいえ、数学で表すところから考察するため、内容的には数学Ｉより高度な内容になる。		
評価の観点	Ｉ.知識・技能	II.思考･判断･表現	III.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	文章題や身近な測量、背理法など生活の中に潜む数学的な内容について、その意味や基本的な性質、論理の筋道や基本的な統計分析などについて理解し、その知識を身に付けている。 正しく計算し、それらの計量の有用性を認識し活用することができる。	数や式の見方を豊かにし、生活の中に現れる数量関係を関数を用いて表したり疑問を解決したり、三角比の性質を活用しての事象の考察をしたり、集合や統計分析を用いて、自分の考えを表現したりできる。	スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。 それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。	レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	文字に置き換えての展開　分母の有理化	1	前期レポート第Ｉ回
	数直線　連立不等式　２次不等式の応用	1	前期レポート第２回
	身近な測量　空間図形と三角比	1	前期レポート第３回
後期	逆と対偶　背理法	1	後期レポート第Ｉ回
	分散と標準偏差　相関関係	1	後期レポート第２回
	相関係数	1	後期レポート第３回
備考	数学Ｉの履修後に受講できます。（数学Ⅱとの順序は問わない。）		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**なし（スクーリングには教科書の解答編は持参不要）**

教科	理科		前期	後期
科目	**物理基礎**	単位数	1	1
教科書（発行所）	**新編物理基礎(東京書籍)**	レポート数	3	3
		最低面接時間数	4	4
教科書以外の教材（発行所）	**新編物理基礎 学習書（ＮＨＫ出版）**	放送視聴による面接時間数免除	2	2

科目の紹介	必履修科目です。中学校で学習した理科第Ｉ分野のうち、物理分野についての内容を少し深めた内容になっています。中学校での理科と高校での理科の橋渡しをする科目です。		
担当者からのアドバイス･その他の注意	身近な自然現象から物理の法則を導きます。物理法則と公式の関係を考えることが大切です。図や写真を見て、説明を読むことが、物理を理解する上で大変役立ちます。また、数式が出てきますが、数学と違って必ず数式には単位［kg］とか［cm］が含まれています。なぜそうなるのか理由をよく考えてレポートに取り組みましょう。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	（前期）運動の表し方、様々な力、力学的エネルギー、についての基本的な知識を身に付けている。 （後期）熱、波、電気、様々なエネルギーについての基本的な知識を身に付けている。	（前期）運動の表し方、様々な力、力学的エネルギーについて、用語を正しく説明でき、自分の考えを説明できる。 （後期）熱、波、電気、様々なエネルギーについて、用語を正しく説明でき、自分の考えを説明できる。	スクーリングでは､最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは､提出期限に間に合うように提出する。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。	レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	速さ　速度　等速直線運動　合成速度と相対速度　加速度 等加速度運動	1	前期レポート第Ｉ回
	加速度　等加速度運動　自由落下　鉛直投射　放物運動　力 力のつり合い　力の合成と分解　作用・反作用　運動の法則	2	前期レポート第２回
	摩擦力　抵抗力と浮力　仕事　仕事の原理と仕事率 運動エネルギー　重力による位置エネルギー 弾性力による位置エネルギー　運動エネルギー 力学的エネルギーの保存　いろいろな運動でみる力学的エネルギー	2	前期レポート第３回
	前期のまとめ	1	前期レポート第Ｉ～３回
	生徒実験	3	前期レポート第Ｉ～３回
後期	前期の復習　熱と温度　物質の三態　熱の移動と保存　熱と仕事 熱効率と不可逆反応	1	後期レポート第Ｉ回
	いろいろな波　波の伝わり方　波を表す　波の重ね合わせ 定常波　波の反射　音の伝わり方　振動する弦　振動する気柱	2	後期レポート第２回
	動かない電気　動く電気　電流と電気抵抗　直列接続と並列接続 電力と電気量　電流が作る磁界　発電機のしくみ　直流と交流 電磁波　エネルギーの変換と保存　エネルギーの利用 放射線の利用　原子力の利用	2	後期レポート第３回
	後期のまとめ	1	後期レポート第Ｉ～３回
	生徒実験	3	後期レポート第Ｉ～３回
備考	各期にそれぞれ3回生徒実験の講座があります。グループを組んで実験を行います。初対面の人ともグループを組んで実験を行うことになるので出席する人は知っておいてください。事前予約が必要になるので出席する場合は必ず予約が必要です。		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**生徒実験の講座は3日前の木曜日までに予約が必要です。**

<table>
<tr><td>教科</td><td>理科</td><td></td><td>前期</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>科目</td><td>物理</td><td>単位数</td><td>2</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教科書（発行所）</td><td rowspan="2">高等学校物理（第一学習社）</td><td>レポート数</td><td>6</td><td>6</td></tr>
<tr><td>最低面接時間数</td><td>8</td><td>8</td></tr>
<tr><td>教科書以外の教材
（発行所）</td><td>なし</td><td>放送視聴による
面接時間数免除</td><td>-</td><td>-</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目の紹介</td><td colspan="3">物理基礎で学習したことをもとに、発展的な内容を学習します。観察や実験を通して、自然の事物や現象について探究します。</td></tr>
<tr><td>担当者からのアドバイス・その他の注意</td><td colspan="3">すでに学習済みの物理基礎の教科書・学習書を振り返りながら学習を進めましょう。教科書を熟読し、式の意味を考えたり、計算を自分で繰り返したりしながら、レポート作成に取りかかりましょう。</td></tr>
<tr><td>評価の観点</td><td>Ⅰ.知識・技能</td><td>Ⅱ.思考･判断･表現</td><td>Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価の
基本的な
考え方</td><td>（前期）物体の運動や気体分子の性質、波の性質、音、光についての基本的な知識を身に付けている。

（後期）電気と磁気、原子と原子核についての基本的な知識を身に付けている。</td><td>（前期）物体の運動や気体分子の性質、波の性質、音、光について、用語を正しく説明でき、自分の考えを説明できる。

（後期）電気と磁気、原子と原子核について、用語を正しく説明でき、自分の考えを説明できる。</td><td>スクーリングでは､最低面接時間数を満たすように出席する。
レポートでは､提出期限に間に合うように提出する。
学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。</td></tr>
<tr><td>主な評価方法</td><td>主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。</td><td>主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。</td><td>レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>学期</td><td>学習内容</td><td>時数</td><td>レポート等</td></tr>
<tr><td rowspan="6">前期</td><td>平面運動と放物運動　剛体のつりあい</td><td>2</td><td>前期レポート第１回</td></tr>
<tr><td>運動量の保存</td><td>1</td><td>前期レポート第２回</td></tr>
<tr><td>円運動と単振動</td><td>2</td><td>前期レポート第３回</td></tr>
<tr><td>気体の性質と分子の運動</td><td>2</td><td>前期レポート第４回</td></tr>
<tr><td>波の性質　音波</td><td>2</td><td>前期レポート第５回</td></tr>
<tr><td>光波</td><td>2</td><td>前期レポート第６回</td></tr>
<tr><td rowspan="6">後期</td><td>電場と電位</td><td>2</td><td>後期レポート第１回</td></tr>
<tr><td>電流</td><td>2</td><td>後期レポート第２回</td></tr>
<tr><td>交流と磁場</td><td>2</td><td>後期レポート第３回</td></tr>
<tr><td>電磁誘導と交流</td><td>2</td><td>後期レポート第４回</td></tr>
<tr><td>電子と光</td><td>2</td><td>後期レポート第５回</td></tr>
<tr><td>原子と原子核と放射線</td><td>1</td><td>後期レポート第６回</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3">特になし</td></tr>
</table>

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	なし

教科	理科		前期	後期
科目	**化学基礎**	単位数	1	1
教科書（発行所）	**新編化学基礎(東京書籍)**	レポート数	3	3
		最低面接時間数	4	4
教科書以外の教材 （発行所）	**新編化学基礎 学習書（ＮＨＫ出版）**	放送視聴による 面接時間数免除	2	2

科目の紹介	必履修科目です。物質とその変化の関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を身に付けていくことを目指します。		
担当者からのアドバイス･その他の注意	レポートは、単に空欄のみを埋めるのではなく、教科書をよく読み、書かれている内容を十分に理解したうえで、完成させるようにしましょう。物質の量を表す特有の単位や計算問題もありますが、計算自体は基礎的な比例計算が中心です。覚えることと考えることが、半分ずつでてくると思ってください。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	（前期）化学と人間生活の関わり、身近な物質や元素、物質の構成粒子についての基本的な知識を身に付けている。 （後期）物質量と化学反応式、物質の変化とその利用についての基本的な知識を身に付けている。	（前期）化学と人間生活の関わり、身近な物質や元素、物質の構成粒子について､用語を説明でき､関連する事項の計算問題の過程も説明できる。 （後期）化学と人間生活の関わり、身近な物質や元素、物質の構成粒子について､用語を説明でき､関連する事項の計算問題の過程も説明できる。	スクーリングでは､最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは､提出期限に間に合うように提出する。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	化学とは何か　物質の成分　物質の構成元素　物質の三態	2	前期レポート第１回
	原子の構造　電子配置と周期表	2	前期レポート第２回
	イオンとイオン結合　分子と共有結合　金属と金属結合 化学結合と物質の分類	2	前期レポート第３回
後期	原子量・分子量・式量　物質量　溶液の濃度 化学反応の表し方　化学反応式の表す量的関係	2	後期レポート第１回
	酸と塩基　水素イオン濃度とｐＨ　中和反応と塩の生成 中和滴定	2	後期レポート第２回
	酸化と還元　酸化剤と還元剤　金属の酸化還元反応 酸化還元反応の応用　化学が拓く世界	2	後期レポート第３回
備考	特になし		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**なし**

<table>
<tr><td>教科</td><td>理科</td><td></td><td>前期</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>科目</td><td>化学</td><td>単位数</td><td>2</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教科書（発行所）</td><td rowspan="2">新編化学（数研出版）</td><td>レポート数</td><td>6</td><td>6</td></tr>
<tr><td>最低面接時間数</td><td>8</td><td>8</td></tr>
<tr><td>教科書以外の教材
（発行所）</td><td>なし</td><td>放送視聴による
面接時間数免除</td><td>-</td><td>-</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目の紹介</td><td colspan="3">化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身に付けていくことを目指します。</td></tr>
<tr><td>担当者からのアドバイス･その他の注意</td><td colspan="3">化学基礎での学習をもとに、さらに詳しい学習を行います。物質の量を表す単位や計算には公式を使ったものなどで化学特有の考え方を必要とするものもあります。教科書などを読みこんで基本をしっかり身に付け、理解を深めながら取り組んでください。</td></tr>
<tr><td>評価の観点</td><td>Ⅰ.知識・技能</td><td>Ⅱ.思考･判断･表現</td><td>Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価の基本的な考え方</td><td>（前期）物質の状態、物質の変化について、化学の基本的な概念や原理・法則を理解している。

（後期）無機物質、有機化合物、高分子化合物について、化学の基本的な概念や原理・法則を理解している。</td><td>（前期）物質の状態、物質の変化について、規則性や関連性を見いだして思考や表現ができる。

（後期）無機物質、有機化合物、高分子化合物について、規則性や関連性を見いだして思考や表現ができる。</td><td>スクーリングでは､最低面接時間数を満たすように出席する。
レポートでは､提出期限に間に合うように提出する。
学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。</td></tr>
<tr><td>主な評価方法</td><td>主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。</td><td>主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。</td><td>レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>学期</td><td>学習内容</td><td>時数</td><td>レポート等</td></tr>
<tr><td rowspan="6">前期</td><td>固体の構造　物質の状態変化</td><td>1</td><td>前期レポート第１回</td></tr>
<tr><td>気体　溶液</td><td>2</td><td>前期レポート第２回</td></tr>
<tr><td>化学反応とエネルギー</td><td>2</td><td>前期レポート第３回</td></tr>
<tr><td>電池と電気分解</td><td>2</td><td>前期レポート第４回</td></tr>
<tr><td>化学反応の速さとしくみ</td><td>2</td><td>前期レポート第５回</td></tr>
<tr><td>化学平衡</td><td>2</td><td>前期レポート第６回</td></tr>
<tr><td rowspan="6">後期</td><td>非金属元素</td><td>2</td><td>後期レポート第１回</td></tr>
<tr><td>金属元素（Ⅰ）―典型元素―　金属元素（Ⅱ）―遷移元素―</td><td>2</td><td>後期レポート第２回</td></tr>
<tr><td>有機化合物の分類と分析　脂肪族炭化水素
アルコールと関連化合物</td><td>2</td><td>後期レポート第３回</td></tr>
<tr><td>芳香族化合物</td><td>2</td><td>後期レポート第４回</td></tr>
<tr><td>高分子化合物　天然高分子化合物</td><td>2</td><td>後期レポート第５回</td></tr>
<tr><td>合成高分子化合物</td><td>1</td><td>後期レポート第６回</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3">特になし</td></tr>
</table>

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	なし

<table>
<tr><td>教科</td><td colspan="2">理科</td><td></td><td>前期</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>科目</td><td colspan="2">生物基礎</td><td>単位数</td><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教科書（発行所）</td><td colspan="2" rowspan="2">新編生物基礎（東京書籍）</td><td>レポート数</td><td>3</td><td>3</td></tr>
<tr><td>最低面接時間数</td><td>4</td><td>4</td></tr>
<tr><td>教科書以外の教材
（発行所）</td><td colspan="2">新編生物基礎　学習書(ＮＨＫ出版)</td><td>放送視聴による
面接時間数免除</td><td>2</td><td>2</td></tr>
<tr><td>科目の紹介</td><td colspan="5">必履修科目です。日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けていきます。</td></tr>
<tr><td>担当者からのアドバイス･その他の注意</td><td colspan="5">レポートは、単に空欄のみを埋めるのではなく、教科書をよく読み、書かれている内容を十分に理解したうえで、完成させるようにしましょう。ＮＨＫ高校講座「生物基礎」は学習を進めていくうえで大いに役立ちますので、視聴することを勧めます。</td></tr>
<tr><td>評価の観点</td><td>Ⅰ.知識・技能</td><td>Ⅱ.思考･判断･表現</td><td colspan="3">Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価の基本的な考え方</td><td>（前期）生物の特徴､ヒトの体の調節についての基本的な知識を身に付けている。

（後期）生物の特徴､遺伝子とそのはたらき､生物の多様性と生態系についての基本的な知識を身に付けている。</td><td>（前期）生物の特徴､ヒトの体の調節について､用語を正しく説明でき､自分の考えを説明できる。

（後期）生物の特徴､遺伝子とそのはたらき､生物の多様性と生態系について､用語を正しく説明でき､自分の考えを説明できる。</td><td colspan="3">スクーリングでは､最低面接時間数を満たすように出席する。
レポートでは､提出期限に間に合うように提出する。
学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。</td></tr>
<tr><td colspan="5">上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。</td></tr>
<tr><td>主な評価方法</td><td>主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。</td><td>主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。</td><td colspan="3">レポート・スクーリング・テストの状況を総合的に評価します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>学期</td><td>学習内容</td><td>時数</td><td>レポート等</td></tr>
<tr><td rowspan="4">前期</td><td>生物の多様性と共通性　生物とエネルギー</td><td>2</td><td>前期レポート第１回</td></tr>
<tr><td>ヒトの体を調節するしくみ</td><td>2</td><td>前期レポート第２回</td></tr>
<tr><td>ヒトの体を調節するしくみ　免疫のはたらき</td><td>2</td><td>前期レポート第３回</td></tr>
<tr><td>前期のまとめ</td><td>1</td><td>前期レポート第１～３回</td></tr>
<tr><td rowspan="4">後期</td><td>生物の多様性と共通性　生物とエネルギー
遺伝情報のＤＮＡ　遺伝情報とタンパク質の合成</td><td>2</td><td>後期レポート第１回</td></tr>
<tr><td>植生と遷移　生態系と生物の多様性</td><td>2</td><td>後期レポート第２回</td></tr>
<tr><td>遷移とバイオーム　生態系と人為的攪乱</td><td>2</td><td>後期レポート第３回</td></tr>
<tr><td>後期のまとめ</td><td>1</td><td>後期レポート第１～３回</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3">特になし</td></tr>
</table>

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	なし

教科	理科		前期	後期
科目	**生物**	単位数	2	2
教科書（発行所）	**生物（東京書籍）**	レポート数	6	6
		最低面接時間数	8	8
教科書以外の教材（発行所）	**なし**	放送視聴による面接時間数免除	-	-

科目の紹介	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けていきます。		
担当者からのアドバイス・その他の注意	レポートは、単に空欄のみを埋めるのではなく、教科書をよく読み、書かれている内容を十分に理解したうえで、完成させるようにしましょう。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考・判断・表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	（前期）進化、生命現象と物質、遺伝子発現、発生についての基本的な知識を身に付けている。 （後期）進化、生物の環境応答、生態と環境についての基本的な知識を身に付けている。	（前期）進化、生命現象と物質、遺伝子発現、発生について、用語を正しく説明でき、自分の考えを説明できる。 （後期）進化、生物の環境応答、生態と環境について、用語を正しく説明でき、自分の考えを説明できる。	スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価「B」になります。特に程度が高い状況を評価「A」とします。また、基準を満たしていない場合は評価「C」になります。最終評価で評価「A」となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	レポート・スクーリング・テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	生命の共通性と進化	1	前期レポート第１回
	生殖と減数分裂	1	前期レポート第２回
	代謝とエネルギー	2	前期レポート第３回
	代謝とエネルギー　遺伝子発現	2	前期レポート第４回
	遺伝子発現	2	前期レポート第５回
	発生	2	前期レポート第６回
	前期のまとめ	1	前期レポート第１～６回
後期	生命の共通性と進化	1	後期レポート第１回
	動物の刺激の受容と反応	1	後期レポート第２回
	植物の環境応答	2	後期レポート第３回
	個体群と生物群集	2	後期レポート第４回
	生物群集と生態系の物質生産	2	後期レポート第５回
	生物群集と生態系の物質収支	2	前期レポート第６回
	後期のまとめ	1	後期レポート第１～６回
備考	特になし		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**なし**

教科	保健体育		前期	後期
科目	**体育Ⅰ**	単位数	1	1
教科書（発行所）	**現代高等保健体育（大修館書店）**	レポート数	-	-
		最低面接時間数	5	5
教科書以外の教材（発行所）	**現代高等保健体育学習書（ＮＨＫ出版）**	放送視聴による面接時間数免除	-	-

科目の紹介	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を身に付ける科目です。体育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは必履修科目で、体育Ⅰから順に履修します。		
担当者からのアドバイス･その他の注意	さまざまな球技を通して勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開していきましょう。日頃から健康管理をして、安全に留意するとともに、互いに協力し合い学習を行えるように心がけましょう。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	運動の合理的、計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを味わうことができ、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することができるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。 面接時に授業プリントなどを活用し、技術向上に努めている。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。 それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、授業プリント・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、授業プリント・スクーリングの状況も評価します。	スクーリング・授業プリント・テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容		時数	レポート等
前期	ソフトボール	１．スローイングとキャッチボール ２．ゴロ、フライの捕球 ３．バッティング ４．ピッチング ５．簡易ゲーム ６．ゲーム	9	
後期	バレーボール	１．パス（ｵｰﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾊﾟｽ・ｱﾝﾀﾞｰﾊﾝﾄﾞﾊﾟｽ） ２．サーブ ３．トスとスパイク ４．簡易ゲーム ５．ゲーム	9	
備考	体育実技の面接時間数を次の学校行事に参加することにより取ることができます。 ① 操山ハイキング（ウォーキングコース）：２時間　② スポーツ祭：２時間 スクーリングは男女共習で行います。			

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**・服装はジャージ上下。（詳細は操山通信・ＨＰで確認すること）** **・靴については、グラウンドは運動靴、体育館は学校指定の体育館シューズ。グラウンドの種目でも、雨天時またはグラウンドが使用できない場合は体育館で行います。その場合でも体育館シューズがないと、出席を認めることができません。必ず両方の用意をしておくこと。** **・体育実技の時間に、教科書・学習書は持参しなくてもよい。**

教科	保健体育		前期	後期
科目	**体育Ⅱ**	単位数	1	1
教科書（発行所）	**現代高等保健体育（大修館書店）**	レポート数	-	-
		最低面接時間数	5	5
教科書以外の教材（発行所）	**現代高等保健体育学習書（ＮＨＫ出版）**	放送視聴による面接時間数免除	-	-

科目の紹介	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を身に付ける科目です。体育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは必履修科目で、体育Ⅰから順に履修します。		
担当者からのアドバイス･その他の注意	さまざまな球技を通して勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開していきましょう。日頃から健康管理をして、安全に留意するとともに、互いに協力し合い学習を行えるように心がけましょう。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	運動の合理的、計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを味わうことができ、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することができるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。 面接時に授業プリントなどを活用し、技術向上に努めている。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。 それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、授業プリント・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、授業プリント・スクーリングの状況も評価します。	スクーリング・授業プリント・テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容		時数	レポート等
前期	テニス	Ｉ．グラウンドストローク	9	
		２．サービス		
		３．ボレー		
		４．スマッシュ		
		５．簡易ゲーム		
		６．ゲーム		
後期	サッカー	Ｉ．ボールリフティング	9	
		２．ドリブル		
		３．キック・シュート		
		４．スモールゲーム		
		５．ゲーム		
備考	体育実技の面接時間数を次の学校行事に参加することにより取ることができます。 ① 操山ハイキング（ウォーキングコース）：２時間　② スポーツ祭：２時間 スクーリングは男女共習で行います。			

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**・服装はジャージ上下。（詳細は操山通信・ＨＰで確認すること）** **・靴については、グラウンドは運動靴、体育館は学校指定の体育館シューズ。グラウンドの種目でも、雨天時またはグラウンドが使用できない場合は体育館で行います。その場合でも体育館シューズがないと、出席を認めることができません。必ず両方の用意をしておくこと。** **・体育実技の時間に、教科書・学習書は持参しなくてもよい。**

<table>
<tr><td>教科</td><td>保健体育</td><td></td><td>前期</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>科目</td><td>体育Ⅲ（実技）</td><td>単位数</td><td>1</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教科書（発行所）</td><td rowspan="2">現代高等保健体育（大修館書店）</td><td>レポート数</td><td>-</td><td>-</td></tr>
<tr><td>最低面接時間数</td><td>5（※注）</td><td>10(※注)</td></tr>
<tr><td>教科書以外の教材
（発行所）</td><td>現代高等保健体育学習書（ＮＨＫ出版）</td><td>放送視聴による
面接時間数免除</td><td>-</td><td>-</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目の紹介</td><td colspan="3">体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を身に付ける科目です。体育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは必履修科目で、体育Ⅰから順に履修します。</td></tr>
<tr><td>担当者からのアドバイス･その他の注意</td><td colspan="3">さまざまな球技を通して勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開していきましょう。日頃から健康管理をして、安全に留意するとともに、互いに協力し合い学習を行えるように心がけましょう。</td></tr>
<tr><td>評価の観点</td><td>Ⅰ.知識・技能</td><td>Ⅱ.思考･判断･表現</td><td>Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価の基本的な考え方</td><td>運動の合理的、計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを味わうことができ、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付けている。</td><td>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することができるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。</td><td>スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。
面接時に授業プリントなどを活用し、技術向上に努めている。
学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。
それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。</td></tr>
<tr><td colspan="3">上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。</td></tr>
<tr><td>主な評価方法</td><td>主にテストで、授業プリント・スクーリングの状況も評価します。</td><td>主にテストで、授業プリント・スクーリングの状況も評価します。</td><td>スクーリング・授業プリント・テストの状況を総合的に評価します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>学期</td><td colspan="2">学習内容</td><td>時数</td><td>レポート等</td></tr>
<tr><td rowspan="6">前期</td><td rowspan="6">バスケットボール</td><td>1．シュート</td><td rowspan="6">6</td><td rowspan="6"></td></tr>
<tr><td>2．パスとドリブル</td></tr>
<tr><td>3．ピボットとフェイク</td></tr>
<tr><td>4．コンビネーションプレー</td></tr>
<tr><td>5．簡易ゲーム</td></tr>
<tr><td>6．ゲーム</td></tr>
<tr><td rowspan="5">後期</td><td rowspan="5">バドミントン</td><td>1．ストローク</td><td rowspan="5">11</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>2．サービス（ショート･ロング）</td></tr>
<tr><td>3．フライト</td></tr>
<tr><td>4．簡易ゲーム</td></tr>
<tr><td>5．ゲーム</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="4">体育実技の面接時間数を次の学校行事に参加することにより取ることができます。
①　操山ハイキング（ウォーキングコース）：２時間　　②　スポーツ祭：２時間
（※注）最低面接時間数は、実技と理論を合わせて前期５時間・後期１０時間です。
ただし、実技で前期３時間・後期７時間以上が必要です。　スクーリングは男女共習で行います。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの</td><td>・服装はジャージ上下。（詳細は操山通信・ＨＰで確認すること）
・靴については、グラウンドは運動靴、体育館は学校指定の体育館シューズ。
グラウンドの種目でも、雨天時またはグラウンドが使用できない場合は体育館で行います。その場合でも体育館シューズがないと、出席を認めることができません。必ず両方の用意をしておくこと。
・体育実技の時間に、教科書・学習書は持参しなくてもよい。</td></tr>
</table>

教科	保健体育		前期	後期
科目	体育Ⅲ（理論）	単位数	1	2
教科書（発行所）	現代高等保健体育（大修館書店）	レポート数	2	5
		最低面接時間数	5（※注）	10（※注）
教科書以外の教材 （発行所）	現代高等保健体育学習書(ＮＨＫ出版)	放送視聴による 面接時間数免除	1	1

科目の紹介	現代社会におけるスポーツの意義や価値、科学的、効果的なスポーツの実践、豊かなスポーツライフの設計について多角的に思考し判断し表現する学習を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実践できるようにするための科目です。体育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは必履修科目で、体育Ⅰから順に履修します。		
担当者からのアドバイス･その他の注意	・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解できるようにしましょう。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにしましょう。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できるようにしましょう。 ・運動･スポーツの重要性を理解し、学んだことを積極的に活用し、運動･スポーツを楽しみましょう。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	スポーツの発祥と発展、運動・スポーツの学び方、豊かなスポーツライフの設計などについて理解し、その知識を身に付けている。	スポーツの発祥と発展、運動・スポーツの学び方、豊かなスポーツライフの設計などについて用語を正しく説明したり、自分の考えを表現できる。	スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。 それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。	レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	スポーツの始まりと変遷　　　文化としてのスポーツ	1	前期レポート第１回
	オリンピックとパラリンピックの意義	1	
	スポーツが経済に及ぼす効果　スポーツの高潔さとドーピング	1	前期レポート第２回
	スポーツと環境	1	
後期	スポーツにおける技能と体力　スポーツにおける技術と戦術	1	後期レポート第１回
	技能の上達過程と練習　　効果的な動きのメカニズム	1	後期レポート第２回
	体力トレーニング　　運動やスポーツでの安全の確保	1	後期レポート第３回
	生涯スポーツの見方・考え方　ライフスタイルに応じたスポーツ	1	後期レポート第４回
	スポーツを推進する取り組み　　豊かなスポーツライフの創造	1	後期レポート第５回
備考	（※注）最低面接時間数は、実技と理論を合わせて前期５時間・後期１０時間です。 ただし、実技で前期３時間・後期７時間以上が必要です。		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	なし

教科	保健体育		前期	後期
科目	**保健**	単位数	1	1
教科書（発行所）	**現代高等保健体育（大修館書店）**	レポート数	3	3
		最低面接時間数	1	1
教科書以外の教材（発行所）	**現代高等保健体育学習書（ＮＨＫ出版）**	放送視聴による面接時間数免除	-	-

科目の紹介	必履修科目です。健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を体系的に学習することにより、健康課題を認識し、科学的に思考・判断し、適切に処理できるようにすることをねらいとしており、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を学びます。		
担当者からのアドバイス･その他の注意	日常生活と非常に密接な関係にある科目です。また、人が生きていくうえで、健康に生活することは何よりも重要なことです。日頃から健康に生活できるよう、自分で考えて行動することを心がけるようにしてください。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けようとしている。	健康についての課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。	スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。 それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	レポート・スクーリング・テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	健康の考え方と成り立ち　生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防　がんの治療と回復	1	前期レポート第１回
	運動と健康　食事と健康　休養・睡眠と健康 喫煙・飲酒と健康　薬物乱用と健康	1	
	精神疾患　現代の感染症　性感染症とエイズ 意思決定・行動選択　健康に関する環境づくり	1	前期レポート第２回
	交通事故　交通における安全 応急手当　心肺蘇生法	1	前期レポート第３回
後期	ライフステージと健康　性意識と性行動の選択 妊娠と出産　避妊法と人工妊娠中絶	1	後期レポート第１回
	結婚生活と健康　中高年の健康 働くこと・労働災害　健康的な職業生活	1	
	大気汚染と健康　水質汚濁・土壌汚染と健康 環境と健康にかかわる対策　ごみの処理と上下水道の整備 食品の安全性　食品衛生にかかわる活動	1	後期レポート第２回
	保健・医療サービス　医薬品の制度 さまざまな保健活動　健康に関する環境づくり	1	後期レポート第３回
備考	学習内容については、年間計画とは異なる場合もあります。		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**なし**

教科	芸術		前期	後期
科目	**音楽Ⅰ**	単位数	1	1
教科書（発行所）	**音楽Ⅰ　Tutti+ (教育出版)**	レポート数	3	3
		最低面接時間数	4	4
教科書以外の教材（発行所）	**音楽Ⅰ　Tutti+学習書（ＮＨＫ出版）**	放送視聴による面接時間数免除	2	2

科目の紹介	選択必履修科目です。音楽についての理解を深め、表現と鑑賞の能力を伸ばし、創造的な音楽の力や生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てることを目指します。		
担当者からのアドバイス･その他の注意	スクーリングで、各時間にレポートの内容について解説を行うので、最初に配付される授業の予定表を確認して出席する計画を立てましょう。スクーリングには教科書とレポートを用意しましょう。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	音楽の基礎的な理論を身に付けている。雅楽の鑑賞や演奏に取り組むことができる。近隣諸国の音楽に目を向け、音楽の多様性についての知識を深めることができる。	(前期)日本の歌からヨーロッパの歌曲、合唱曲まで幅広いジャンルの歌唱を表現できる。興味ある楽器の演奏の仕方やリズム・アンサンブルなどの知識を深めることができる。 (後期)さまざまな舞台芸術、オペラやミュージカルなどの作品を鑑賞し、歌唱することができる。	スクーリングでは､レポートの内容を理解するように取り組む。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	テストとレポートの結果で評価します。	テストとレポートの結果で評価します。	レポート・スクーリング・テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	音符　休符　拍子　記号などの基礎知識についての学習	4	前期レポート第Ⅰ回
	リズム　演奏記号　音程についての学習	4	前期レポート第２回
	調号　音階の成り立ち　楽語　記号についての学習	4	前期レポート第３回
後期	演奏形態　日本の音楽　教科書の鑑賞曲についての学習	4	後期レポート第Ⅰ回
	西洋音楽史　日本の音楽と和楽器　西洋の音楽と楽器 教科書の鑑賞曲についての学習	4	後期レポート第２回
	西洋音楽史　教科書の鑑賞曲についての学習	4	後期レポート第３回
備考	テストはレポート第3回の返却時に同封される「受験票」を持って、時間割の芸術科目テストの時間に受験すること。「受験票」が届いたら、定期テストより前に本校面接の指定時間に受験することができる。なるべく早く受験すること。		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**各期のレポート**

教科	芸術		前期	後期
科目	**美術Ⅰ**	単位数	**1**	**1**
教科書（発行所）	**高校生の美術１(日本文教出版)**	レポート数	**3**	**3**
		最低面接時間数	**4**	**4**
教科書以外の教材 （発行所）	**高校生の美術１ 学習書（ＮＨＫ出版）**	放送視聴による 面接時間数免除	−	−

科目の紹介	選択必履修科目です。美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
担当者からのアドバイス･その他の注意	レポートは、教科書をよく読んで取り組みましょう。「上手・下手、才能ある・なし」ということより、美術に興味関心を持って、一生懸命、意欲的に作品に取り組むことが大切です。スクーリングでは陶芸や版画を４時間で制作します。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	（前期）様々な表現の基礎的な内容となる技法や制作を身に付けている。 （後期）技能の習得や、美術の歴史についての知識を深めることができる。	（前期）身近な題材で、発想や構想を生かした表現ができる。 （後期）鑑賞したことが発想し構想することに生かされ、主題性のある表現を追求できる。	（前期）制作意欲を持って、時間をかけて取り組んでいる。 （後期）興味・関心を持って鑑賞し、追求して制作に取り組んでいる。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	レポート・スクーリング・テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	鉛筆デッサン「静物」	4	前期レポート第Ｉ回
	ポスターとレタリング「自分のポスター」	4	前期レポート第２回
	水彩画「静物」又は「風景」	4	前期レポート第３回
後期	抽象画「自由なタイトル」	4	後期レポート第Ｉ回
	鑑賞「美術館鑑賞」　美術史	4	後期レポート第２回
	水彩画「自画像」	4	後期レポート第３回
備考	テストはレポート第3回の返却時に同封される「受験票」を持って、時間割の芸術科目テストの時間に受験すること。「受験票」が届いたら、定期テストより前に本校面接の指定時間に受験することができる。なるべく早く受験すること。		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**筆記用具**

教科	芸術		前期	後期
科目	**美術Ⅱ**	単位数	1	1
教科書（発行所）	**高校生の美術２（日本文教出版）**	レポート数	3	3
		最低面接時間数	4	4
教科書以外の教材（発行所）	**なし**	放送視聴による面接時間数免除	－	－

科目の紹介	美術Ｉを履修した生徒が、さらに次の段階として履修するために設けられた科目です。美へのあこがれ、自己の夢、心豊かな生活などの実現を目指して生徒自らが、表現や鑑賞の活動を選択して学習を深める科目です。		
担当者からのアドバイス･その他の注意	教科書をよく見てください。美術Ｉで学んだことや反省した点などを生かして、より良い作品を作りましょう。 授業は陶芸や版画を4時間で制作します。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	（前期）様々な表現の技法や制作を身に付けている。 （後期）技能の習得や知識を深めることができる。	（前期）身近な題材で、発想や構成を生かした表現ができる。 （後期）発想や構想が生かされ、主題性のある表現を追求できる。	（前期）制作意欲を持って、時間をかけて取り組んでいる。 （後期）興味・関心を持って追求して制作に取り組んでいる。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	レポート・スクーリング・テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	【模写・鑑賞】自分の好きな画家の絵を模写し、その画家について調べる	2	前期レポート第Ⅰ回
	【デッサン】人物を鉛筆でデッサンする	2	前期レポート第２回
	【水彩画】「静物画」または「風景画」	4	前期レポート第３回
後期	【コラージュ】何かを貼り付けて絵を作る	2	後期レポート第Ⅰ回
	【デザイン】粘着テープのデザイン	2	後期レポート第２回
	【抽象画】タイトルを自分で決めて、抽象的な絵を描く	4	後期レポート第３回
備考	テストはレポート第3回の返却時に同封される「受験票」を持って、時間割の芸術科目テストの時間に受験すること。「受験票」が届いたら、定期テストより前に本校面接の指定時間に受験することができる。なるべく早く受験すること。		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**筆記用具**

教科	芸術		前期	後期
科目	**書道Ⅰ**	単位数	1	1
教科書（発行所）	**書道Ⅰ(東京書籍)**	レポート数	3	3
		最低面接時間数	4	4
教科書以外の教材（発行所）	**書道Ⅰ　学習書(ＮＨＫ出版)**	放送視聴による面接時間数免除	－	－

科目の紹介	選択必履修科目。書は文字を素材とした芸術である。文字そのものは、ことばの機能を果たす手段に過ぎない。しかし、毛筆で書くことによりその人の思いや感情が、筆力、筆勢となって表され、また、点画の構成や線質、墨色の変化などが自由に表されるとき、初めて書と呼ぶことができる。高校の書道では、生活に深く根ざした書を理解し、表現力・鑑賞力を養い、美しいものを美しいと感じる素直な心と豊かな生活感情を育てることが主な目的である。		
担当者からのアドバイス･その他の注意	「自ら学ぶ」という姿勢を常にもち、学び取るという学習態度が大切である。書道は、「表現」及び「鑑賞」する力がバランスよく身に付くことこそ肝要である。そのためには教科書や学習書をよく読み、実技トレーニングに励む必要がある。また、美術館や文化プラザ等で開催されている書道展や美術展にも足を運び、鑑賞眼や感性を高めるようにするとよい。身の回りの文字や作品、碑文にも興味関心をもつとよい。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	・書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	レポート・スクーリング・テストの状況を総合的に評価します。	レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。	レポート・スクーリング・テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	中学校書写で学習したことの確認として、楷書と楷書に調和する仮名について学習する。「夢のかけ橋」	2	前期レポート第Ｉ回
	楷書の用筆、運筆、構成や字形の取り方について理解し、練習する。 「九成宮醴泉銘」と「孔子廟堂碑」を比較し、それぞれの文字から受ける印象について考え、臨書する。「清泉」「大道」	4	前期レポート第２回
	楷書の古典を鑑賞し、その美について理解する。 楷書の古典の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして臨書する。「制度」	4	前期レポート第３回
後期	行書の用筆、運筆、字形の取り方について理解し、練習する。 行書の古典を臨書する意義について理解する。 行書の古典の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして臨書する。「永和」	2	後期レポート第Ｉ回
	仮名の用具・用材の特徴について理解する。 仮名の基本的な線について理解し、練習する。 変体仮名や連綿について理解し、練習する。 平安時代の代表的な古筆を臨書する。 「いろは・・・」「おほぞらに・・・」	4	後期レポート第２回
	創作の手順に従い、漢字の書や仮名の書で学んだ古典の特徴や技法を生かして、創作する。・縦書き、横書きを学ぶ。宮沢賢治『銀河鉄道の夜』	4	後期レポート第３回
備考	テストはレポート第3回の返却時に同封される「受験票」を持って、時間割の芸術科目テストの時間に受験すること。「受験票」が届いたら、定期テストより前に本校面接の指定時間に受験することができる。なるべく早く受験すること。		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**書道用具一式、レポート、半紙(レポート用・練習用)、新聞紙2～3枚、雑巾またはタオル1枚、黒ボールペンまたは細いサインペン**

<table>
<tr><td>教科</td><td>芸術</td><td></td><td>前期</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>科目</td><td>書道Ⅱ</td><td>単位数</td><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教科書（発行所）</td><td rowspan="2">書道Ⅱ(東京書籍)</td><td>レポート数</td><td>3</td><td>3</td></tr>
<tr><td>最低面接時間数</td><td>4</td><td>4</td></tr>
<tr><td>教科書以外の教材
（発行所）</td><td>なし</td><td>放送視聴による
面接時間数免除</td><td>－</td><td>－</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目の紹介</td><td colspan="3">書道Ⅰを履修した生徒が、さらに次の段階として履修するために設けられている。書道Ⅰの学習の上に立って、書の伝統文化としての理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばすことをねらいとしている。自ら学び、自ら考える力を育成するために必要な、問題解決能力をはぐくむための課題学習の機会も設ける。</td></tr>
<tr><td>担当者からのアドバイス・その他の注意</td><td colspan="3">「自ら学ぶ」という姿勢を常に持ち、学び取るという学習態度が大切である。書道は「理論」「実技」「鑑賞」がバランスよく身に付くことこそ肝要である。そのためには、自宅学習での実技トレーニングを書道Ⅰで学んだ以上に行いたい。それだけ内容の濃い高度な格調高い技を学習するので、しっかり努力して一生涯役立ててほしい。教科書をよく見て、よく読もう。</td></tr>
<tr><td>評価の観点</td><td>Ⅰ.知識・技能</td><td>Ⅱ.思考･判断･表現</td><td>Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価の
基本的な
考え方</td><td>・用筆･運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。
・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。</td><td>・目的や用途、表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。
・感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫している。</td><td>・主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組み、生涯に渡り書を愛好する心情を育もうとしている。
・主体的に漢字、仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。</td></tr>
<tr><td colspan="3">上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。</td></tr>
<tr><td>主な評価方法</td><td>レポート・スクーリング・テストの状況を総合的に評価します。</td><td>レポート・スクーリング・テストの状況を総合的に評価します。</td><td>レポート・スクーリング・テストの状況を総合的に評価します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>学期</td><td></td><td>時数</td><td>レポート等</td></tr>
<tr><td rowspan="3">前期</td><td>・書道Ⅰの篆書の学習を踏まえて、個性的で多様な篆書の表現を鑑賞し、その美について理解を深める。
・篆書の古典の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして臨書する。　『游魚』</td><td>2</td><td>前期レポート第Ｉ回</td></tr>
<tr><td>・隷書の学習を踏まえて、個性的で多様な隷書の表現を鑑賞し、その美について理解を深める。
・隷書の古典の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして臨書する。　『青龍』</td><td>4</td><td>前期レポート第２回</td></tr>
<tr><td>・書道Ⅰの草書の学習を踏まえて、個性的で多様な草書の表現を鑑賞し、その美について理解を深める。
・草書の古典の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして臨書する。　『草書』</td><td>2</td><td>前期レポート第３回</td></tr>
<tr><td rowspan="3">後期</td><td>・書道Ⅰの行書の学習を踏まえて、個性的で多様な行書の表現を鑑賞し、その美について理解を深める。
・行書の古典の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして臨書する。　レポート・『積雪』</td><td>2</td><td>後期レポート第Ｉ回</td></tr>
<tr><td>・書道Ⅰの学習を踏まえて、仮名の書の発展と古今和歌集との関係について理解し、鑑賞する。
・書道Ⅰの学習を踏まえて、平仮名と変体仮名の用筆、字形の取り方について理解を深める。
・書道Ⅰの学習を踏まえて、連綿による文字の表情の変化と、その効果について理解を深める。　『名まえ』</td><td>2</td><td>後期レポート第２回</td></tr>
<tr><td>・仮名の古筆を観賞し､行書きと散らし書きの美について理解を深める。
・書道Ⅰの学習を踏まえて、行書きと散らし書きの基本的技法を確かめる。
・行書きや散らし書きの変化の付け方を理解する。　（創作）</td><td>4</td><td>後期レポート第３回</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3">テストはレポート第3回の返却時に同封される「受験票」を持って、時間割の芸術科目テストの時間に受験すること。「受験票」が届いたら、定期テストより前に本校面接の指定時間に受験することができる。なるべく早く受験すること。</td></tr>
</table>

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**書道用具一式、レポート、半紙(レポート用・練習用)、新聞紙2～3枚、雑巾またはタオル1枚、黒ボールペンまたは細いサインペン**

教科	外国語		前期	後期
科目	**英語入門**	単位数	1	2
教科書（発行所）	英語入門 An English Primer （岡山県立岡山操山高等学校通信制課程）	レポート数	3	6
		最低面接時間数	4	8
教科書以外の教材 （発行所）	なし	放送視聴による 面接時間数免除	－	－

科目の紹介	中学段階での英語学習にあまり自信がない人を対象としています。アルファベットやローマ字の確認から始まり、主に中学校で習う英語の文法を扱います。練習問題を繰り返しながら基礎力の定着を目指します。教科書の英単語や英文は音読できるように練習し、発音や単語の意味も学習していきます。		
担当者からのアドバイス･その他の注意	英単語や文の規則など、覚えることがたくさんあります。授業や個別面接（英語）等に積極的に参加し、疑問点を残さないようにすることが大切です。わからないことは進んで質問しましょう。語学は継続性が重要となります。毎日少しずつでも英語に触れることをおすすめします。他の英語科目との同時受講はできません。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	英語の文字や音声、語彙、表現、文法、単語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識をもとに、読むこと、聞くこと、話すこと、書くことができる。	基本的な語句を用いて英文を組み立てることができる。また、基本的な英文を理解し、指示に従って英文を書き換えたり、英語の質問に答えたりすることができる。	スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは、提出期限に間に合うように計画的に学習し提出する。 学習の成果が出るようにテストに取り組んでいる。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	レポート・スクーリング・テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	アルファベットとローマ字　日常のあいさつと数字　代名詞	3	前期レポート第１回
	単数・複数・冠詞　主語と動詞　be動詞を使った文	3	前期レポート第２回
	一般動詞を使った文　疑問詞	2	前期レポート第３回
後期	現在進行形　過去形（be動詞・一般動詞）	2	後期レポート第１回
	助動詞　比較	2	後期レポート第２回
	There is…/場所を表す言葉　命令文	2	後期レポート第３回
	感嘆文　受動態	2	後期レポート第４回
	to不定詞　接続詞	2	後期レポート第５回
	後期学習事項の復習	2	後期レポート第６回
備考	教科書の問題の答は『解答・解説』で確認しましょう。		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	なし

教科	外国語		前期	後期
科目	**英語コミュニケーションⅠ**	単位数	1	2
教科書（発行所）	All Aboard! English Communication Ⅰ （東京書籍）	レポート数	3	6
		最低面接時間数	4	8
教科書以外の教材（発行所）	All Aboard! English Communication Ⅰ 学習書（ＮＨＫ出版）	放送視聴による面接時間数免除	2	4

科目の紹介	必履修科目です。英語の基礎をしっかり定着させることを目指します。英語の文章を読んでその内容を把握したり、基本的な文法や文型について学びます。また、コミュニケーションに使用できる簡潔な英語表現を学びます。
担当者からのアドバイス・その他の注意	読解、リスニング、文法理解、作文などを通して、総合的な英語力を養いましょう。英語を理解し、使えるようになるためには反復学習が必要です。音読をすることも有効な手段です。

評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考・判断・表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	英語の音声や語彙、表現、文法、単語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を活用して、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことができる。	日常的な話題や社会的な話題について、英語で書かれたり話されたりしている情報や考えなどの概要・要点・詳細を把握し、話し手や書き手の意図などを的確に理解している。	スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価「B」になります。特に程度が高い状況を評価「A」とします。また、基準を満たしていない場合は評価「C」になります。最終評価で評価「A」となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	レポート・スクーリング・テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	Pre Lesson1～Lesson1 be動詞　一般動詞　否定文と疑問文　動詞の過去形	4	前期レポート第１回
	Lesson2　現在進行形　過去進行形	2	前期レポート第２回
	Lesson3　助動詞	2	前期レポート第３回
後期	Lesson4　to不定詞	2	後期レポート第１回
	Lesson5　動名詞	2	後期レポート第２回
	Lesson6　受け身	2	後期レポート第３回
	Lesson7　比較表現	2	後期レポート第４回
	Lesson8　現在完了形	2	後期レポート第５回
	Lesson9 ～ Lesson10　名詞を後ろから説明する分詞　関係代名詞	2	後期レポート第６回
備考	本校ＨＰにある「科目の部屋」には、授業で使用したプリント等が掲載されています。授業で学習することができなかった部分については、この「科目の部屋」をしっかり活用しましょう。		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**なし**

教科	外国語		前期	後期
科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	2	2
教科書（発行所）	All Aboard! English Communication Ⅱ (東京書籍)	レポート数	6	6
		最低面接時間数	8	8
教科書以外の教材（発行所）	All Aboard! English Communication Ⅱ 学習書(ＮＨＫ出版)	放送視聴による面接時間数免除	4	4

科目の紹介	英語コミュニケーションⅠを履修した後に、受講できる科目です。語彙・文法・内容など、いずれも英語コミュニケーションⅠに比べて相当難しくなっています。しっかりとした基礎力のある人でないと困難を感じることがあるでしょう。		
担当者からのアドバイス・その他の注意	読解、リスニング、文法理解、作文などを通して、総合的な英語力を養いましょう。また、英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばしましょう。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考・判断・表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	英語の音声や語彙、表現、文法、単語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を活用して、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことができる。	日常的な話題や社会的な話題について、英語で書かれたり話されたりしている情報や考えなどの概要・要点・詳細を把握し、話し手や書き手の意図などを的確に理解している。	スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価「B」になります。特に程度が高い状況を評価「A」とします。また、基準を満たしていない場合は評価「C」になります。最終評価で評価「A」となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	レポート・スクーリング・テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	Lesson1　関係代名詞 what	2	前期レポート第１回
	Lesson2　比較表現	2	前期レポート第２回
	Lesson3　it の用法	2	前期レポート第３回
	Lesson4　間接疑問文	2	前期レポート第４回
	Lesson5　to不定詞を含む表現	2	前期レポート第５回
	文法のまとめ１・２　Reading 1	2	前期レポート第６回
後期	Lesson6　動詞の目的語になるif節	2	後期レポート第１回
	Lesson7　関係副詞	2	後期レポート第２回
	Lesson8　知覚動詞	2	後期レポート第３回
	Lesson9　使役動詞	2	後期レポート第４回
	Lesson10　分詞構文	2	後期レポート第５回
	文法のまとめ３・４	2	後期レポート第６回
備考	本校ＨＰにある「科目の部屋」には、授業で使用したプリント等が掲載されています。授業で学習することができなかった部分については、この「科目の部屋」をしっかり活用しましょう。		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	なし

教科	外国語		前期	後期
科目	**論理・表現Ｉ**	単位数	1	1
教科書（発行所）	NEW FAVORITE　English Logic and Expression I （東京書籍）	レポート数	3	3
		最低面接時間数	4	4
教科書以外の教材（発行所）	NEW FAVORITE　English Logic and Expression I 学習書（ＮＨＫ出版）	放送視聴による面接時間数免除	2	2

科目の紹介	英語コミュニケーションＩを履修した後に、この科目を受講することができます。 英語コミュニケーションＩで学習した英語の知識をもとに、様々な場面で自分の考えや気持ちなどを伝えることが出来るように、必要な会話表現を学習します。また、適切な理由や根拠を添えて論理的に述べる方法も学習します。授業ではテーマに沿った会話文やスピーチ原稿の作成を目指します。
担当者からのアドバイス･その他の注意	読解、リスニング、文法理解、作文などを通して、総合的な英語力を養いましょう。英語を理解し、使えるようになるためには、反復学習が必要です。教科書の英文を繰り返し音読することを習慣にしましょう。教科書の二次元コードを読み取ると音声や動画を視聴することができます。是非活用してください。

評価の観点	Ｉ.知識・技能	II.思考･判断･表現	III.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	英語の音声や語彙、表現、文法、単語の働き等を理解している。また、これらの知識をコミュニケーションにおいて適切に活用することができる。	日常的な場面において、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、状況に応じて適切な表現を用いて自分の考えや気持ちを伝えることができる。	スクーリングには､最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートは､提出期限に間に合うように計画的に学習し提出する。 テストには、学習の成果が出るように取り組んでいる。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	Lesson1　初めての食事 Lesson2　道に迷う	2	前期レポート第１回
	Lesson3　人物紹介 Lesson4　体調が悪い	3	前期レポート第２回
	Lesson5　買い物 Lesson6　行ってみたい場所	3	前期レポート第３回
後期	Lesson7　イベントに誘われる Lesson8　スクールカウンセラーに相談	2	後期レポート第１回
	Lesson9　お気に入りを紹介 Lesson10 待ち合わせに遅刻	3	後期レポート第２回
	Lesson11 家庭でのディスカッション Lesson12 英字新聞に投稿	3	後期レポート第３回
備考	テスト前には対策プリントを配布します。		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	なし

教科	外国語		前期	後期
科目	**英語コミュニケーション探究**	単位数	2	1
教科書（発行所）	**All Aboard! English Communication Ⅰ（東京書籍）**	レポート数	6	3
		最低面接時間数	8	4
教科書以外の教材（発行所）	**All Aboard! English Communication Ⅰ学習書（ＮＨＫ出版）**	放送視聴による面接時間数免除	4	2

科目の紹介	英語コミュニケーションⅠを履修した後に、この科目を受講することができます。 英語コミュニケーションⅠで学習した内容の復習や応用練習を行い、英語の基礎をしっかり定着させることを目指します。英語でのコミュニケーションに必要な表現や文法について学んだり、英語の文章を読んで、内容や重要表現の理解を深めたりします。		
担当者からのアドバイス･その他の注意	読解、リスニング、文法理解、作文などを通して、総合的な英語力を養いましょう。英語を理解し、使えるようになるためには、反復学習が必要です。教科書の英文を繰り返し音読することを習慣にしましょう。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	英語の音声や語彙、表現、文法、単語の働き等を理解している。また、これらの知識をコミュニケーションにおいて適切に活用することができる。	日常的な話題や社会的な話題について、英語で書かれた情報や考えを的確に理解し、適切に相手に伝えることができる。	スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。 学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価「B」になります。特に程度が高い状況を評価「A」とします。また、基準を満たしていない場合は評価「C」になります。最終評価で評価「A」となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。	レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	動詞と時制	2	前期レポート第１回
	助動詞　不定詞　動名詞	2	前期レポート第２回
	受け身　現在完了形	2	前期レポート第３回
	比較表現　英文のしくみ	2	前期レポート第４回
	道案内　乗換案内	2	前期レポート第５回
	前期のまとめ	2	前期レポート第６回
後期	名詞を後ろから説明する分詞	3	後期レポート第１回
	関係代名詞	3	後期レポート第２回
	仮定法過去　後期のまとめ	2	後期レポート第３回
備考	本校ＨＰにある「科目の部屋」には、授業で使用したプリント等が掲載されています。 授業で学習することができなかった部分については、この「科目の部屋」をしっかり活用しましょう。		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**なし**

教科	家庭		前期	後期
科目	**家庭総合**	単位数	2	2
教科書（発行所）	家庭総合　自立・共生・創造 (東京書籍)	レポート数	5	5
		最低面接時間数	5	5
教科書以外の教材（発行所）	家庭総合　自立・共生・創造　学習書 （ＮＨＫ出版）	放送視聴による面接時間数免除	2	2

科目の紹介	必履修科目です。家庭生活で必要な知識や技術を身に付けるとともに、暮らしと社会の課題を結び付けて考え、新しい価値観や行動を生み出すことを目指している。家庭科で学んだ知識や技能を生かして、持続可能な社会を構築する暮らしの担い手になろう。		
担当者からのアドバイス･その他の注意	学校で調理実習に参加する場合、事前に実習費を添えて家庭科教員に直接申し込むこと。 被服実習及びその他の実習に参加する場合、申し込みの必要はありません。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	生活を主体的に営むために必要な科学的な理解と技能を体験的・総合的に身に付けている。	科学的な根拠に基づいて、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養うことにより、家庭や地域の生活を創造する資質が身に付いている。	スクーリングでは､最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは､提出期限に間に合うように提出する。 （テストも加味する）
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。	レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	人生をつくる　　　　　　これからの家庭生活と社会	2	前期レポート第Ｉ回
	子どもの育つ力を知る 子どもと関わる　実習＝沐浴の仕方	3	前期レポート第２回
	安全で快適な住生活の計画	2	前期レポート第３回
	被服の役割を考える　　被服を管理する	1	前期レポート第４回
	基礎縫い	2	前期レポート第５回
後期	食事と栄養・食品	1	後期レポート第Ｉ回
	生涯の健康を見通した食事計画　これからの食生活 私たちの生活と福祉	3	後期レポート第２回
	高齢期の心身の特徴　　　　実習＝シニア体験	2	後期レポート第３回
	消費者の権利と責任　持続可能な生活を営む ホームプロジェクト	2	後期レポート第４回
	日常食の調理	2	後期レポート第５回
備考	前期レポート第５回ではきんちゃく袋の製作を、後期レポート第５回では調理を行い、その内容をまとめます。各実習は、学校実習か自宅実習かの選択制で、学校実習への参加は義務ではありません。		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	被服実習に参加する場合：基礎縫い布セット、前期レポート第５回、被服実習プリント 調理実習に参加する場合：エプロン、マスク、手ふきタオル、後期レポート第５回（学校実習用）

<table>
<tr><td>教科</td><td>情報</td><td></td><td>前期</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>科目</td><td>**情報Ⅰ**</td><td>単位数</td><td></td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教科書（発行所）</td><td rowspan="2">新編情報Ⅰ(東京書籍)</td><td>レポート数</td><td></td><td>4</td></tr>
<tr><td>最低面接時間数</td><td></td><td>4</td></tr>
<tr><td>教科書以外の教材
（発行所）</td><td>新編情報Ⅰ 学習書
（ＮＨＫ出版）</td><td>放送視聴による
面接時間数免除</td><td></td><td>2</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目の紹介</td><td colspan="3">必履修科目です。情報社会を理解していく科目です。</td></tr>
<tr><td>担当者からのアドバイス･その他の注意</td><td colspan="3">進歩する情報社会にあふれる専門用語には、少々難解なものもあります。教科書をよく読んでから、レポートに取りかかりましょう。</td></tr>
<tr><td>評価の観点</td><td>Ⅰ.知識・技能</td><td>Ⅱ.思考･判断･表現</td><td>Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価の基本的な考え方</td><td>効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。</td><td>事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。</td><td>スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。レポートでは、提出期限に間に合うように提出する。学習の成果が出るよう、テストに取り組んでいる。
それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。</td></tr>
<tr><td colspan="3">上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。</td></tr>
<tr><td>主な評価方法</td><td>主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。</td><td>主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。</td><td>レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。</td></tr>
</table>

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	**前期は開講されていません。**		
後期	Ｉ章 情報で問題を解決する 情報と情報技術を活用した問題の発見・解決の方法に着目し、情報社会の問題を発見・解決する。	3	後期レポート第Ｉ回
	２章 情報を伝える 目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える。	2	後期レポート第２回
	３章 コンピュータを活用する コンピュータで情報が処理される仕組みに着目し、シミュレーション等によって問題を解決する。	3	後期レポート第３回
	４章 データを活用する 情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを活用し、問題を発見・解決する。	2	後期レポート第４回
備考	特になし		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**なし**

教科	家庭（専門）		前期	後期
科目	**生活と福祉**	単位数	2	
教科書（発行所）	**生活と福祉　（実教出版）**	レポート数	4	
		最低面接時間数	4	
教科書以外の教材（発行所）	**なし**	放送視聴による面接時間数免除	－	

科目の紹介	高齢者の健康と生活について、高齢期に至るまでの健康づくりや、ライフステージごとの健康管理について学び、生活支援サービスや介護の実習などを通して技術を身につけましょう。
担当者からのアドバイス・その他の注意	・「家庭総合」（４単位）を履修した後に受講できます。 ・介護実習には必ず１時間出席しなければいけません。時間割を確認して計画的に出席すること。 ・実習では２人組になって取り組みます。初対面の人との活動が苦手な人や、体に負荷をかけてはいけない人（妊娠中の生徒も含む）は向いていません。 ・長い髪は束ね、爪は短くして参加してください。 ・動きやすい服装で参加すること。

評価の観点	Ⅰ.知識・技術	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	高齢者の健康と生活、介護などについて体系的･系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	高齢者の健康と生活、介護などに関する課題を発見し、合理的かつ創造的に問題を解決する力を身に付けている。事象の考察、自分の考えを表現できる。	スクーリングでは､最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは､提出期限に間に合うように提出する。テスト・実習も含め、それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート･スクーリングの状況も評価します。	レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	健康と生活	2	前期レポート第１回
	少子高齢化の現状と高齢者の特徴 高齢者の自立支援	2	前期レポート第２回
	高齢者支援の法律と制度	2	前期レポート第３回
	介護の実習 車いすの移乗・移動の介護	1	前期レポート第４回
後期	**後期は開講されていません。**		
備考	前期１回の介護実習の出席を義務づける。		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**授　　業：※学習書はありません。** **介護実習：前期レポート第４回** **動きやすい服装**

教科	家庭（専門）		前期	後期
科目	**フードデザイン**	単位数	2	2
教科書（発行所）	**フードデザイン　（実教出版）**	レポート数	5	5
		最低面接時間数	5	5
教科書以外の教材（発行所）	**基本マスター フード&クッキング（実教出版）**	放送視聴による面接時間数免除	−	−

科目の紹介	「食生活」の内容をより深く学習していく科目です。栄養、食品、調理などに関する知識と技術の習得はもちろん、食生活を総合的にデザインする能力と実践的な態度を身に付けましょう。		
担当者からのアドバイス･その他の注意	・「家庭総合」（４単位）を履修した後に受講できます。 ・調理実習には、それぞれの期に必ずⅠ回出席してください。 実習費はⅠ回　600～800円程度　事前に実習費を添えての予約が必要です。 ※実習時には、爪は短く切って参加してください。つけ爪やネイルアートをしている人は外してください。 ※共同調理の場なので重篤な食物アレルギーのある生徒は受講しないでください。		
評価の観点	Ⅰ.知識・技術	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	栄養、食品、調理など食生活分野について体系的･系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	食生活に関する課題を発見し、家庭や地域の実情に合わせて合理的かつ創造的に課題を解決する力を身に付けている。	スクーリングでは､最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは､提出期限に間に合うように提出する。 それぞれの場面で、教科・科目の目標や学習のねらいを意識して取り組む。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価｢B｣になります。特に程度が高い状況を評価｢A｣とします。また、基準を満たしていない場合は評価｢C｣になります。最終評価で評価｢A｣となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	主にテストで、レポート・スクーリングの状況も評価します。	レポート･スクーリング･テストの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	食事の意義と役割、食をとりまく現状	1	前期レポート第Ⅰ回
	栄養素のはたらき（Ⅰ）	1	前期レポート第２回
	栄養素のはたらき（２）	1	前期レポート第３回
	食品の特徴（Ⅰ）	1	前期レポート第４回
	調理の基本、調理実習	3	前期レポート第５回
後期	食品の特徴（２）	1	後期レポート第Ⅰ回
	食品の表示　ライフステージと栄養	1	後期レポート第２回
	料理様式と献立	1	後期レポート第３回
	テーブルコーディネート、献立作成、調理の基本	1	後期レポート第４回
	調理の基本、調理実習	3	後期レポート第５回
備考	前期後期それぞれⅠ回の調理実習の出席を義務づける。（３時間）		

教科書･学習書以外で授業の出席時に必要なもの	**授業：資料集（基本マスター フード＆クッキング）** **調理実習：エプロン、マスク、手ふきタオル、前期・後期レポート第５回** **長い髪は束ね、爪は短く切っておくこと。** **（つけ爪・ネイルアート・マニキュア不可）**

教科	総合的な探究の時間		前期	後期
科目	総合的な探究の時間	単位数	1	2
教科書（発行所）		レポート数	2	4
		最低面接時間数	2	4
教科書以外の教材（発行所）		放送視聴による面接時間数免除	-	-

科目の紹介	◇教科・科目等の枠を超えて、横断的・総合的な学習や探究的な学習を行います。 ◇興味・関心のある分野を選び、自ら課題を設定して探究活動に取り組みます。 ◇必履修科目です。卒業予定者が受講対象になります。（後期に関しては来年度前期卒業予定者も）
担当者からのアドバイス・その他の注意	それぞれのレポートごとに担当者が異なります。それぞれの合格期限までに合格しないと不合格になります。他の科目のような「評価Ｐ」の合格はありません。学校にある新聞は、切り貼り、コピー等のために貸し出すことはできません。計画的に取り組みましょう。

評価の観点	Ⅰ.知識・技能	Ⅱ.思考･判断･表現	Ⅲ.主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	課題の発見と解決に必要な知識や技能を身に付けている。	実社会や実生活との関わりから課題を設定し、情報を収集・整理・分析して、まとめ・表現することができる。	探究活動に主体的に取り組むことを通して、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。 スクーリングでは、最低面接時間数を満たすように出席する。 レポートでは、期限に間に合うように合格させる。
	上欄に示したことについて、基準を満たしている場合は評価「B」になります。特に程度が高い状況を評価「A」とします。また、基準を満たしていない場合は評価「C」になります。最終評価で評価「A」となるように学習を進めていきましょう。「レポート」「スクーリング」「テスト」の学習サイクルを通して基礎・基本から身に付けていきましょう。		
主な評価方法	主にレポートで、スクーリングの状況も評価します。	主にレポートで、スクーリングの状況も評価します。	レポート・スクーリングの状況を総合的に評価します。

学期	学習内容	時数	レポート等
前期	[主権者として]-実際に行われている多様な形の政治運動、社会運動の事例や、自分で設定した課題の探究を通じて、主権者としての生き方について考えを深める。	1	※ ４つのレポートのうち、２つは合格しなければならない。
	[職業と学問分野]-世の中にある職業について調査・研究し、自分の進路について考える。＊授業への出席には『進路の手引』を持参する。（なくても出席できる。）	1	
	[働くということ]-自分が生き生きと働くために、ワークライフバランスやそれを実現させる方法について考える。	1	
	[自己ＰＲ]-「社会人基礎力」について学び、自分の長所について考える。進路を意識した自己ＰＲ文に挑戦する。	1	
後期	[こころの健康]-「こころと体の健康」を増進するために、「ストレス」について学習する。ストレスとうまくつきあう人生の知恵を学んで「生きる力」とする。	1	※ ８つのレポートのうち、４つは合格しなければならない。
	[科学技術]-ノーベル賞の日本人受賞者について調べる。 なぜ、その研究をすることになったのかを学習する。	1	
	[社会保障]-「社会保険」・「社会福祉」について学習し、支援策について調べることで、将来の自分の生活に役立てる。	1	
	[郷土岡山]-観光地や郷土料理、また岡山弁について知ることで、岡山に関する理解を深め、さらに自分の設定したテーマで岡山について調べる。	1	
	[ディベート]-あるテーマに沿い、「賛成」「反対」の立場に分かれて第三者を説得する討論であるディベートに挑戦する。	1	
	[情報]-情報化の功罪について探究し、どう行動していけばよいのかを考える。	1	
	[環境]-現在重要視されている環境問題について学習・調査を行い、問題解決についての考察をする。	1	
	[からだの健康]-「生活習慣病」について学習するとともに、予防のための「生活のしかた」について考える。	1	
備考	※ 教科書・学習書はありません。		

学習と学習評価について

令和４年４月から新しい学習指導要領が施行されました。新学習指導要領においては、みなさんに身に付けてほしい資質･能力を次の３つの観点に基づき評価します。学習評価の基本的な事項をここで確認し、受講科目のページで詳細を確認しましょう。

① 学習評価の観点

観点Ⅰ 知識・技能	**観点Ⅱ** 思考・判断・表現	**観点Ⅲ** 主体的に学習に取り組む態度

② 学習のポイントは次のようになります

〇レポートでは、各回の合格評価（評価「５」や「４」など）状況や、レポートの遅れ「P 合格」の状況は評価されます。「内容を理解し記述（表現）する」「課題の趣旨を理解し記述する」「遅れがないように計画的に学習に取り組む」ことが求められます。各回のレポートが返却される際には、評価や学習アドバイスを示しますので、確認して、次回以降のレポートに生かしてください。

〇スクーリングでは、計画的に「最低面接時間数」を満たす出席が必要です。放送視聴制度による面接時間数免除は、学習の時期に応じ計画的に利用してください。

〇テストは、身に付けたい資質・能力が習得できているかを診断する上でとても大切です。テストに向けて主体的かつ計画的に学習に取り組みましょう。

② 観点Ⅰ～Ⅲの評価は ABC の３段階で示します

A	「十分満足できる」状況と判断されるもの
B	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
C	「努力を要する」状況と判断されるもの

④ 組み合わせた（例）は以下のとおりです

観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ	備考
A	A	A	（例）レポート・スクーリング・テストいずれも頑張って、３つの観点で「十分満足できる」状況であった。
A	A	B	（例）レポート・スクーリング・テストいずれも取り組んだが、レポートに「P合格」が多かった。
B	B	B	（例）レポート・スクーリング・テストいずれも「おおむね満足できる」状況であった。

⑤ 最終評価について

最終評価は観点の結果を元に５段階評定で示します。テスト終了後に「単位認定書」と「成績書」で通知します。

各教科　評価の観点と規準

教科	観点	規準	評価方法など
国語	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	レポートの内容 前期・後期テスト
	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	レポートの内容 前期・後期テスト
	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。	レポートの内容 出席状況 前期・後期テスト
地理歴史	知識・技能	現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解しているとともに、諸資料を用いて様々な情報を適切に調べまとめることができる。	レポートの内容 前期・後期テスト
	思考・判断・表現	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に表現できる。	レポートの内容 前期・後期テスト
	主体的に学習に取り組む態度	地理や歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。	レポート提出状況 出席状況 前期・後期テスト
公民	知識・技能	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切に調べまとめることができる。	レポートの内容 前期・後期テスト
	思考・判断・表現	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを表現できる。	レポートの内容 前期・後期テスト
	主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	レポート提出状況 出席状況 前期・後期テスト
数学	知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり数学的に解釈したりする技能を身に付けている。	レポートの内容 前期・後期テスト
	思考・判断・表現	数や式を多面的に見たり目的に応じて変形できる。図形の性質や計量について論理的に考察し表現できる。事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。	レポートの内容 前期・後期テスト
	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。	レポート提出状況 出席状況 前期・後期テスト
理科	知識・技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	レポートの内容 前期・後期テスト
	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	レポートの内容 前期・後期テスト
	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	レポート提出状況 出席状況 前期・後期テスト

各教科　評価の観点と規準

教科	観点	規準	評価方法など
保健体育	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	レポートの内容 スクーリング時の態度 前期・後期テスト
	思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	レポートの内容 スクーリング時の態度 前期・後期テスト
	主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとする意欲をもち、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続的に運動に親しもうとしている。	レポートの提出状況 出席状況 前期・後期テスト
芸術	知識・技能	芸術の伝統と文化を幅広く理解し、その良さや美しさを創造的に味わっている。 芸術表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、創造的に表現を工夫する。	レポートへの取り組み スクーリング活動内容
	思考・判断・表現	創造的な芸術表現をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表している。	作品 前期・後期テスト
	主体的に学習に取り組む態度	芸術の喜びを味わい、芸術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	レポート提出状況 出席状況 スクーリング時の態度
外国語	知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、単語の働きなどを理解している。また、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じてこれらの知識を適切に活用して、「聞く」「読む」「話す」「書く」技能を身に付けている。	レポートの内容 スクーリング時の態度 前期・後期テスト
	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解している。また、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	レポートの内容 スクーリング時の態度 前期・後期テスト
	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。	レポート提出状況 出席状況 前期・後期テスト
家庭	知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	レポートの記述内容 作品 実習時の活動内容 前期・後期テスト
	思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	レポートの記述内容 前期・後期テスト
	主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	レポート提出状況 出席状況 スクーリング時の態度 前期・後期テスト

各教科　評価の観点と規準

教科	観点	規準	評価方法など
情報	知識・技能	コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	レポート提出状況 出席状況 前期・後期テスト
	思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	レポート提出状況 出席状況 前期・後期テスト
	主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	レポート提出状況 出席状況 前期・後期テスト
家庭（専門）	知識・技術	生活産業の各分野について体系的･系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	レポートの記述内容 実習時の活動内容 前期・後期テスト
	思考・判断・表現	生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	レポートの記述内容 前期・後期テスト
	主体的に学習に取り組む態度	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	レポート提出状況 実習時の活動内容 出席状況 前期・後期テスト
総合的な探究の時間	知識・技能	課題の発見と解決に必要な知識を身に付けている。様々な情報源から収集した諸情報の中から、有用な情報を主体的に取捨選択して活用している。	レポート提出状況 出席状況
	思考・判断・表現	課題解決のために情報を整理・分析して、自分の考えをわかりやすく論理的にまとめている。誤字脱字等がなく、適切な言葉遣いがなされているなど、的確な言語表現をしている。	レポート提出状況 出席状況
	主体的に学習に取り組む態度	実社会や実生活と自己との関わりから自ら課題を見つけ、思考し、主体的に判断して問題解決しようとしている。学び方やものの考え方、情報収集の仕方を身に付け、自己の生き方や在り方に活用しようとしている。	レポート提出状況 出席状況
特別活動	知識及び技能	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。自己の生活の充実・向上や自己実現に必要となる情報及び方法を理解している。 よりよい生活や社会を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	スクーリング時の態度 出席状況
	思考力・判断力・表現力等	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意志決定をしたりして実践している。	スクーリング時の態度 出席状況
	学びに向かう力・人間性等	生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。主体的に人間としての在り方生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。	スクーリング時の態度 出席状況